

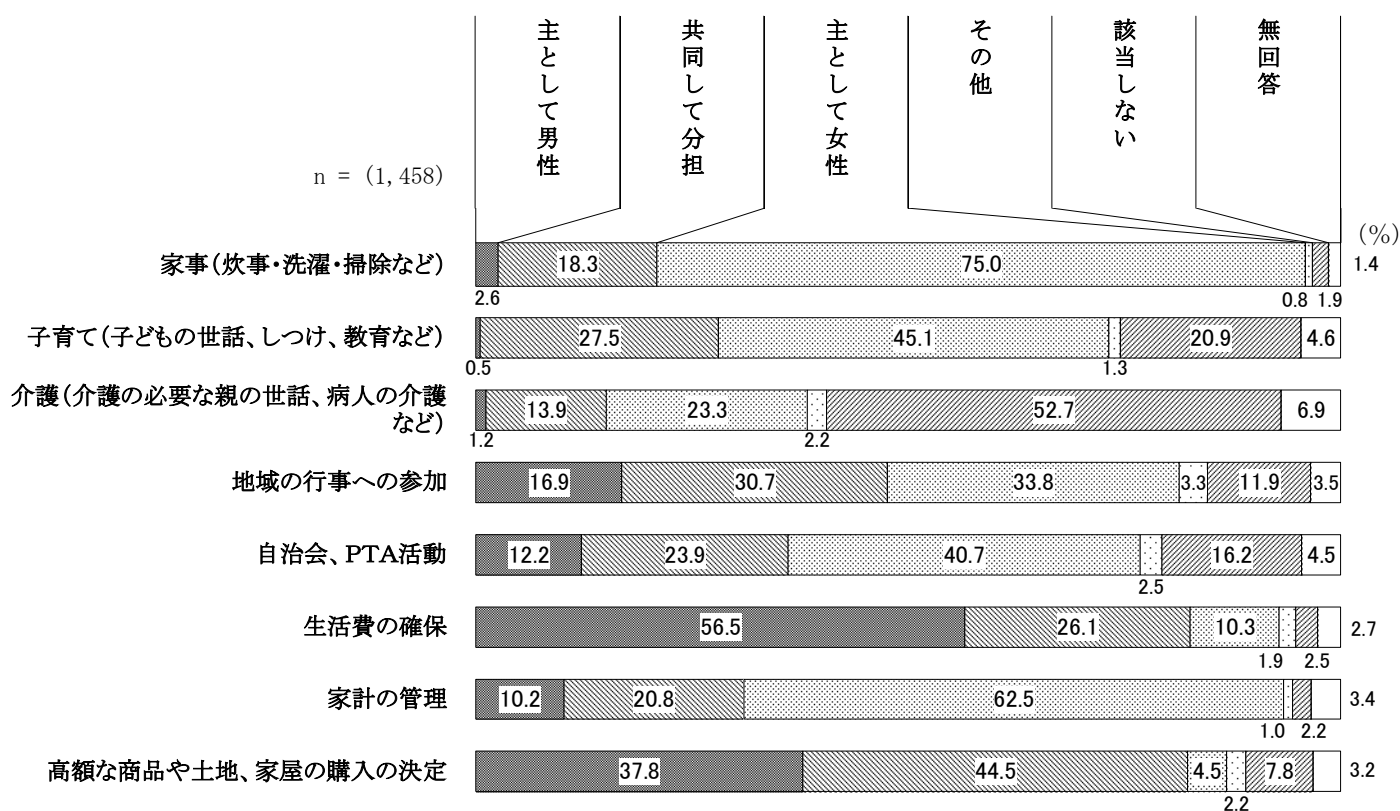
## 2. 家庭生活について

### (1) 家庭生活での役割分担

◎ 【家事】【子育て】【介護】【地域の行事への参加】【自治会、PTA活動】【家計の管理】は依然として「主として女性」が担っている

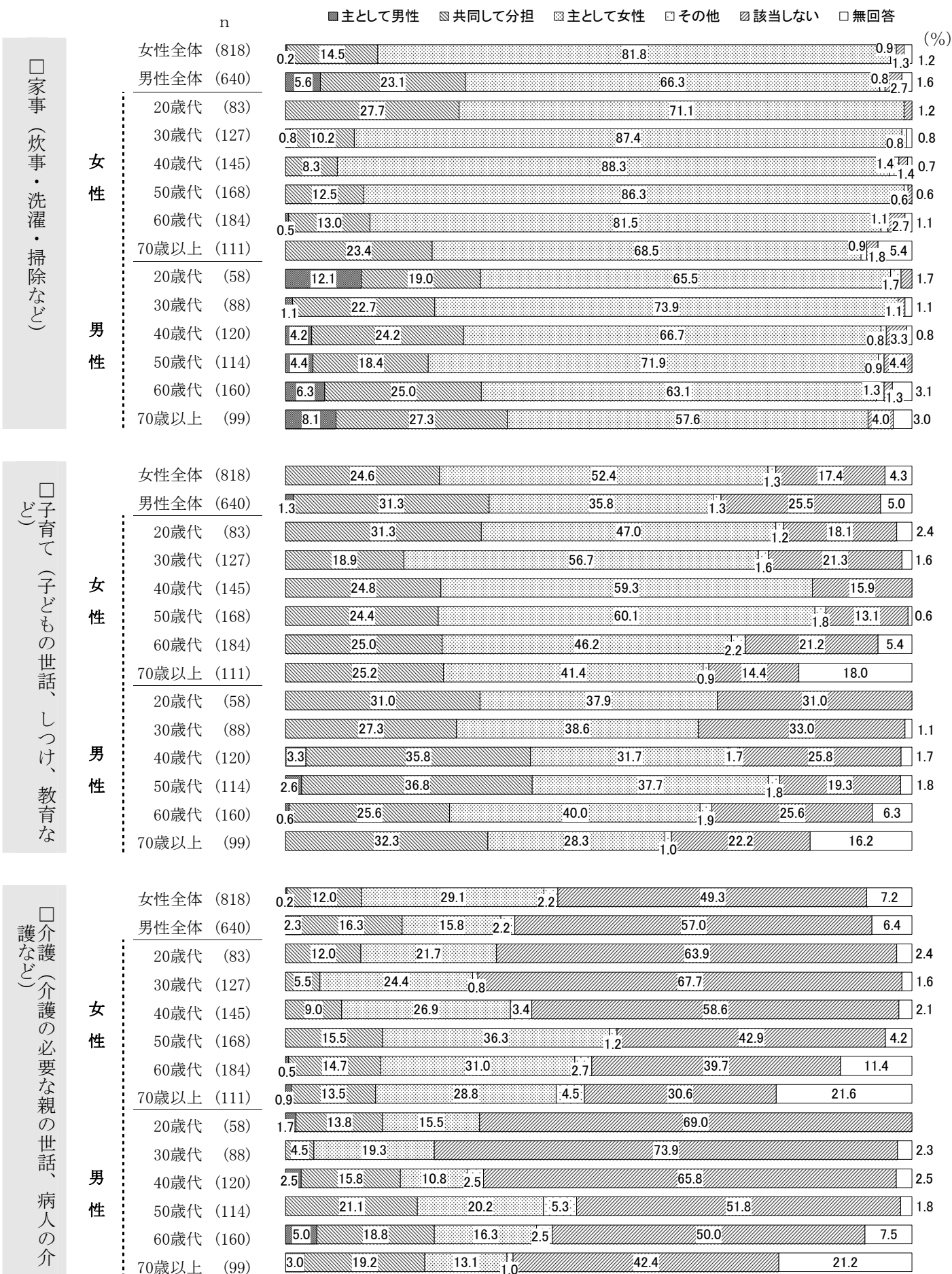
問4 あなたの家庭では次のことについて、主にどなたが行っていますか。  
(それぞれについて該当するものに○を1つ)

図表2-1 家庭生活での役割分担

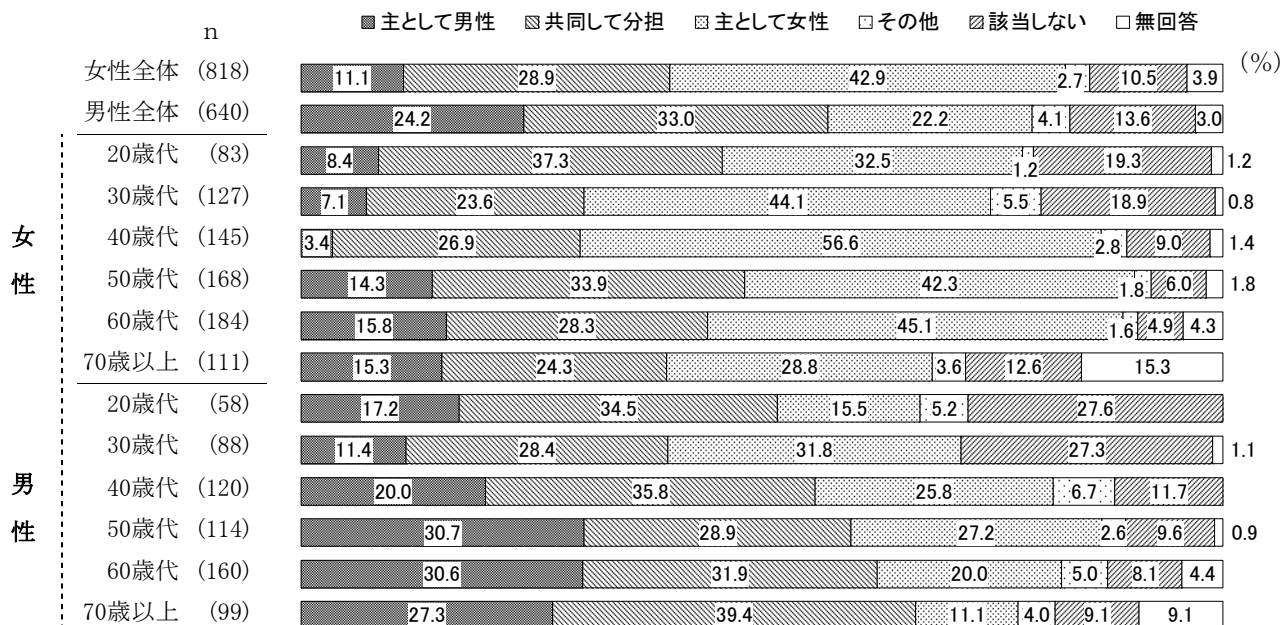


8つの分野について家庭における役割分担の現状を聞いたところ、【家事】、【子育て】、【介護】、【地域の行事への参加】、【自治会、PTA活動】、【家計の管理】では「主として女性」が最も多くなっている。【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】は「共同して分担」が最も多く、【生活費の確保】は「主として男性」が5割台半ばと最も多い。(図表2-1)

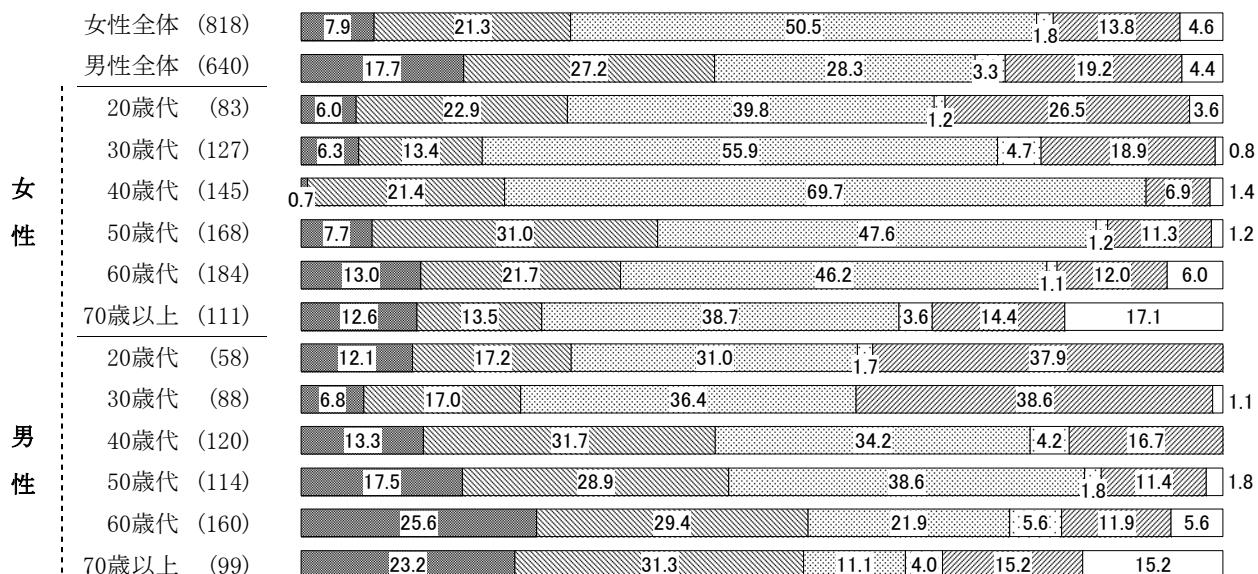
図表2-2 家庭生活での役割分担（性別・性／年齢別）



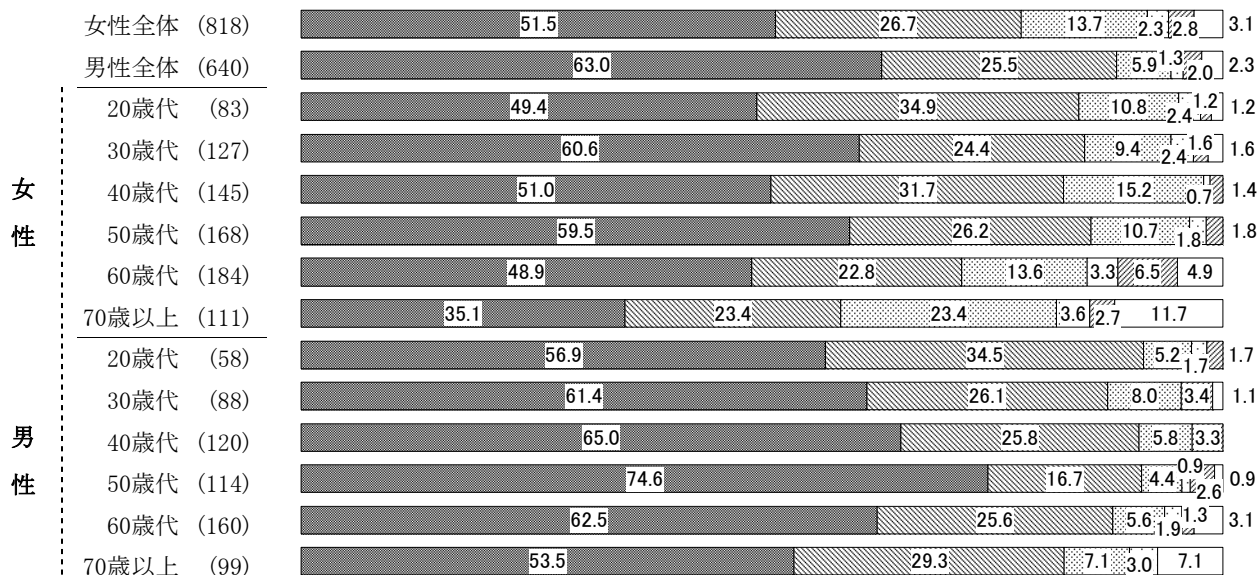
□地域の行事への参加



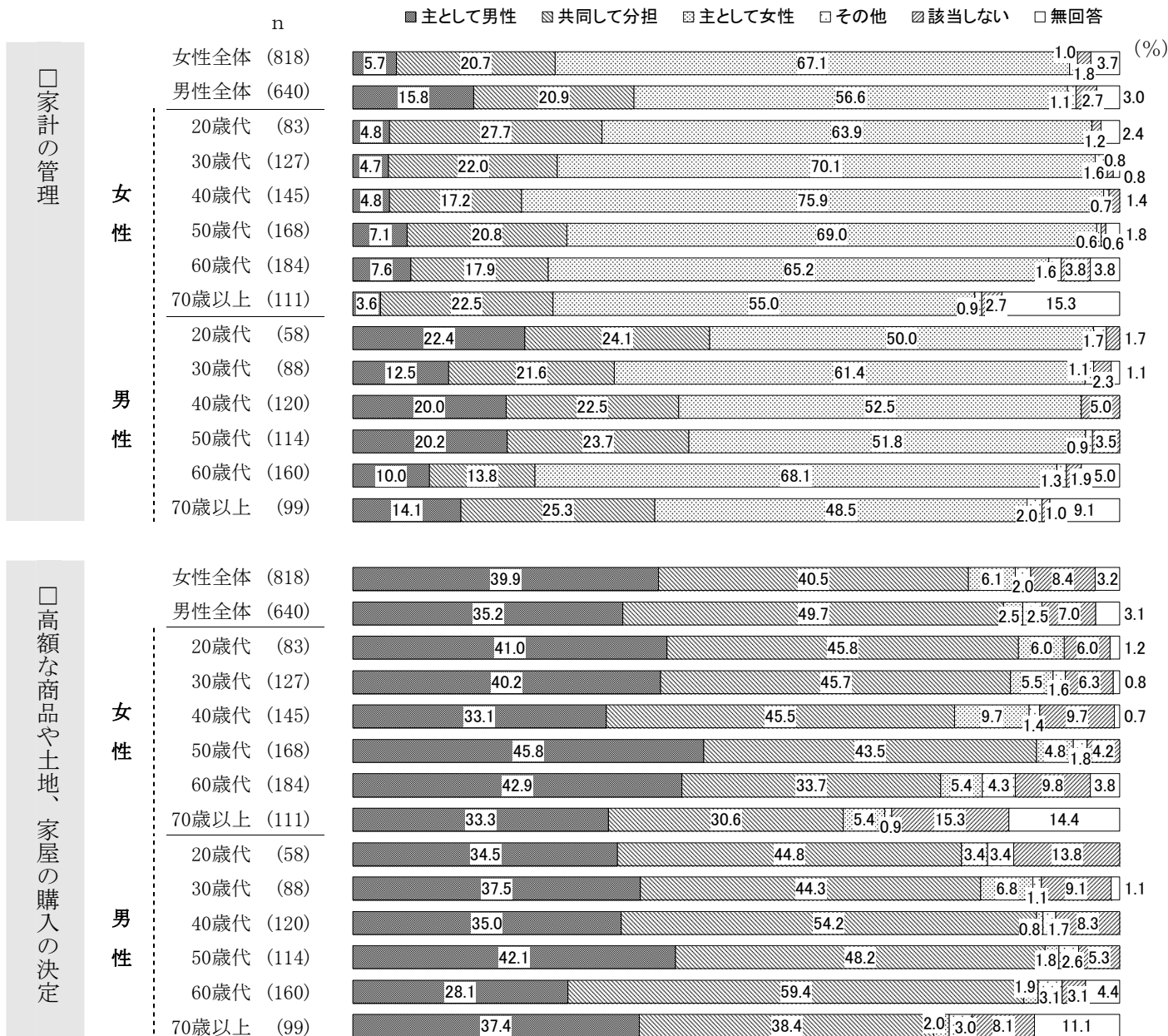
□自治会、PTA活動



□生活費の確保



第IV章 調査の結果



性別でみると、すべての分野において「主として女性」は、女性が男性を上回り、逆に「主として男性」は【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】を除いた分野、「共同して分担」は【生活費の確保】を除いた分野で男性が女性を上回っている。

男女の意識の差の大きいものを分野別にみると、「主として女性」は【自治会、PTA活動】で22ポイント、【地域の行事への参加】で20ポイント、【子育て】で16ポイント、【家事】で15ポイント、それぞれ女性が男性を上回っている。「主として男性」は【地域の行事への参加】で13ポイント、【生活費の確保】で11ポイント、それぞれ男性が女性を上回っている。(図表2-2)

性/年齢別でみると、【家事】で「主として女性」は、女性では20歳代と70歳代を除くすべての年代で8割を超えているほか、男性の30歳代と50歳代で7割を超える。【子育て】で「共同して分担」は、男性の40~50歳代で3割台半ばを超える。【介護】で「主として女性」は女性の50~60歳代で3割を超える。【地域の行事への参加】で「主として女性」は、女性の40歳代で半数を超える。【自治会、PTA

活動】で「主として女性」は、女性の40歳代で7割弱となっている。【生活費の確保】で「主として男性」は、男性の50歳代で7割台半ばとなっている。【家計の管理】で「主として女性」は女性の40歳代で7割台半ば、男性の60歳代でも7割近くとなっている。【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】は「共同して分担」が男性の60歳代で6割弱となっている。(図表2-2)

居住地域別でみると、【家事】で「主として女性」は、北部地域で8割を超えている。【子育て】で「共同して分担」は、秩父地域で4割を超え、県央地域で3割台半ばとなっている。「主として女性」は、西部地域と北部地域で半数を超えている。【介護】で「主として女性」は、秩父地域で4割台半ば、北部地域で3割を超えている。【地域の行事への参加】で「主として男性」は、秩父地域で4割台半ば、川越比企地域と利根地域で2割を超えている。「共同して分担」は、北部地域で4割台半ばを超えている。「主として女性」は、西部地域で4割を超えている。【自治会、PTA活動】で「主として男性」は、秩父地域で2割台半ばである。「共同して分担」は、北部地域で4割近く、川越比企地域で3割を超えている。「主として女性」は、利根地域で4割台半ばである。(図表2-3)

図表2-3 家庭生活での役割分担（居住地域別）

(%)

		n	主として男性	共同して分担	主として女性	その他	該当しない	無回答
□家事 (炊事・洗濯・掃除など)	全体	1,458	2.6	18.3	75.0	0.8	1.9	1.4
	南部地域	128	3.1	25.0	67.2	0.8	1.6	2.3
	南西部地域	136	2.9	19.9	66.9	2.2	5.9	2.2
	東部地域	204	3.4	17.2	77.0	-	1.5	1.0
	さいたま地域	256	0.4	18.8	77.3	1.2	2.0	0.4
	県央地域	103	3.9	20.4	73.8	-	1.9	-
	川越比企地域	172	3.5	15.7	75.0	-	1.7	4.1
	西部地域	167	2.4	18.6	76.6	1.8	0.6	-
	利根地域	140	4.3	13.6	78.6	1.4	1.4	0.7
	北部地域	112	0.9	15.2	80.4	-	1.8	1.8
秩父地域	27	3.7	18.5	74.1	-	-	3.7	
□子育て (子どもの世話、しつけ、教育など)	全体	1,458	0.5	27.5	45.1	1.3	20.9	4.6
	南部地域	128	-	28.1	46.9	-	21.1	3.9
	南西部地域	136	0.7	23.5	44.1	1.5	22.8	7.4
	東部地域	204	-	29.4	43.1	2.5	21.6	3.4
	さいたま地域	256	1.2	27.0	43.8	0.8	23.8	3.5
	県央地域	103	-	35.9	39.8	1.0	18.4	4.9
	川越比企地域	172	0.6	27.9	41.3	0.6	22.1	7.6
	西部地域	167	1.2	19.8	53.9	2.4	20.4	2.4
	利根地域	140	0.7	30.0	45.7	2.1	18.6	2.9
	北部地域	112	-	27.7	52.7	-	16.1	3.6
秩父地域	27	-	40.7	25.9	-	14.8	18.5	

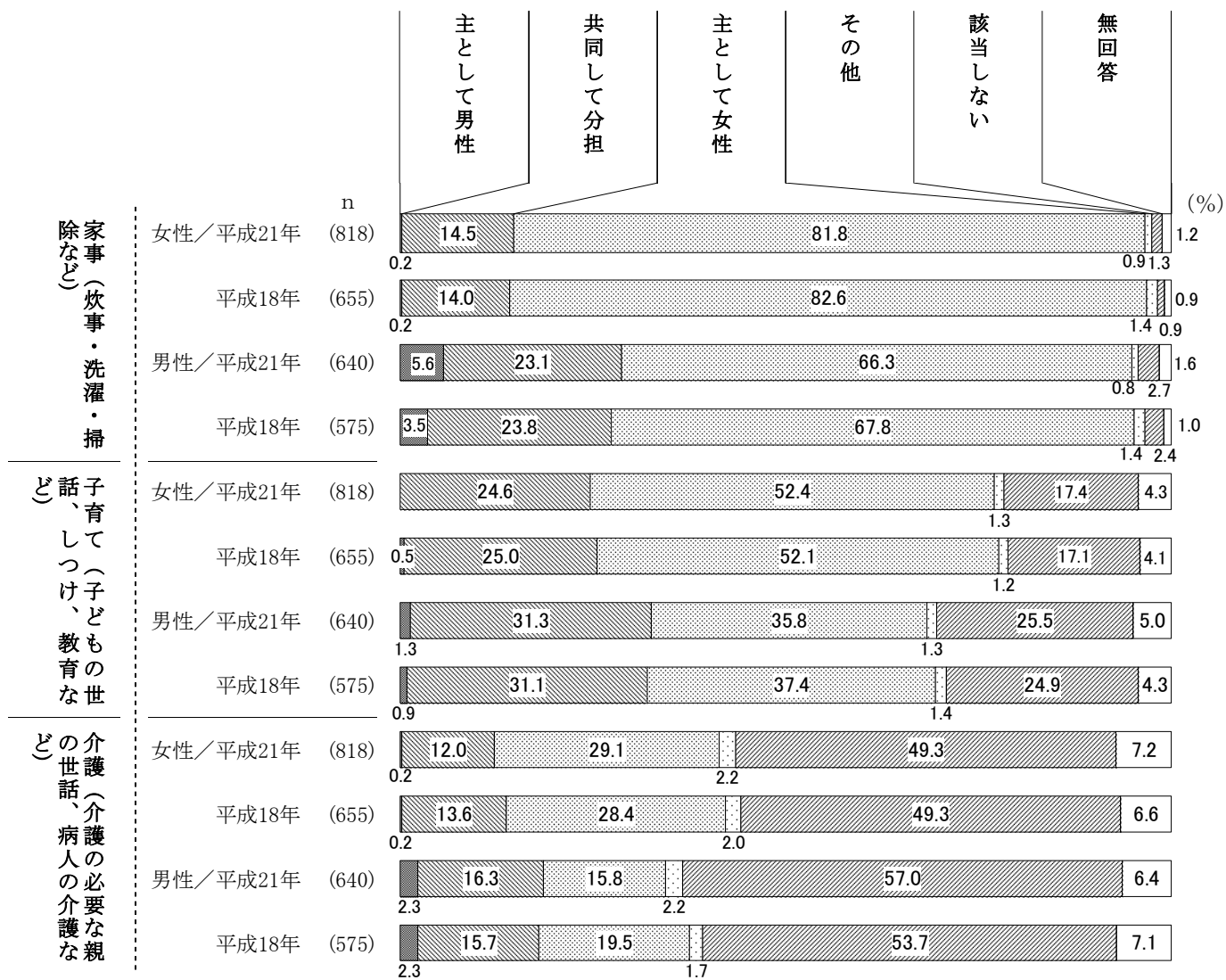
第IV章 調査の結果

(%)

		n	主として男性	共同して分担	主として女性	その他	該当しない	無回答
□ 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）	全 体	1,458	1.2	13.9	23.3	2.2	52.7	6.9
	南部地域	128	2.3	15.6	18.8	1.6	55.5	6.3
	南西部地域	136	3.7	16.9	17.6	3.7	50.7	7.4
	東部地域	204	1.0	14.7	22.1	2.0	51.0	9.3
	さいたま地域	256	0.4	12.5	23.0	2.7	56.3	5.1
	県央地域	103	1.0	11.7	26.2	1.0	52.4	7.8
	川越比企地域	172	1.7	15.1	21.5	2.3	50.6	8.7
	西部地域	167	0.6	13.2	22.8	2.4	56.9	4.2
	利根地域	140	-	13.6	23.6	0.7	57.1	5.0
	北部地域	112	-	10.7	33.0	2.7	47.3	6.3
	秩父地域	27	3.7	11.1	44.4	-	22.2	18.5
□ 地域の行事への参加	全 体	1,458	16.9	30.7	33.8	3.3	11.9	3.5
	南部地域	128	13.3	24.2	39.8	2.3	15.6	4.7
	南西部地域	136	13.2	24.3	36.8	2.9	16.9	5.9
	東部地域	204	10.3	30.4	38.7	3.4	12.7	4.4
	さいたま地域	256	14.5	28.5	34.8	2.7	16.8	2.7
	県央地域	103	19.4	35.9	32.0	4.9	5.8	1.9
	川越比企地域	172	23.3	35.5	22.7	2.3	10.5	5.8
	西部地域	167	18.0	25.1	40.7	6.0	7.8	2.4
	利根地域	140	20.7	31.4	33.6	2.9	10.7	0.7
	北部地域	112	19.6	46.4	25.9	0.9	6.3	0.9
	秩父地域	27	44.4	29.6	11.1	-	3.7	11.1
□ 自治会、PTA活動	全 体	1,458	12.2	23.9	40.7	2.5	16.2	4.5
	南部地域	128	10.2	19.5	41.4	3.1	20.3	5.5
	南西部地域	136	10.3	16.2	41.9	2.9	21.3	7.4
	東部地域	204	8.3	21.6	43.6	2.9	18.6	4.9
	さいたま地域	256	10.5	24.6	43.4	2.0	16.0	3.5
	県央地域	103	9.7	27.2	43.7	1.9	13.6	3.9
	川越比企地域	172	16.9	30.8	29.7	2.3	14.5	5.8
	西部地域	167	16.8	21.0	43.7	3.0	13.8	1.8
	利根地域	140	15.7	20.0	44.3	1.4	16.4	2.1
	北部地域	112	9.8	38.4	36.6	1.8	10.7	2.7
	秩父地域	27	25.9	22.2	14.8	-	14.8	22.2

平成18年調査と比較すると、【家事】は男性で「主として男性」が微増している。【子育て】は男性で「主として女性」が微減している。【介護】は男性で「主として女性」が減少している。(図表2-4)

図表2-4 家庭生活での役割分担 (平成18年調査との比較)

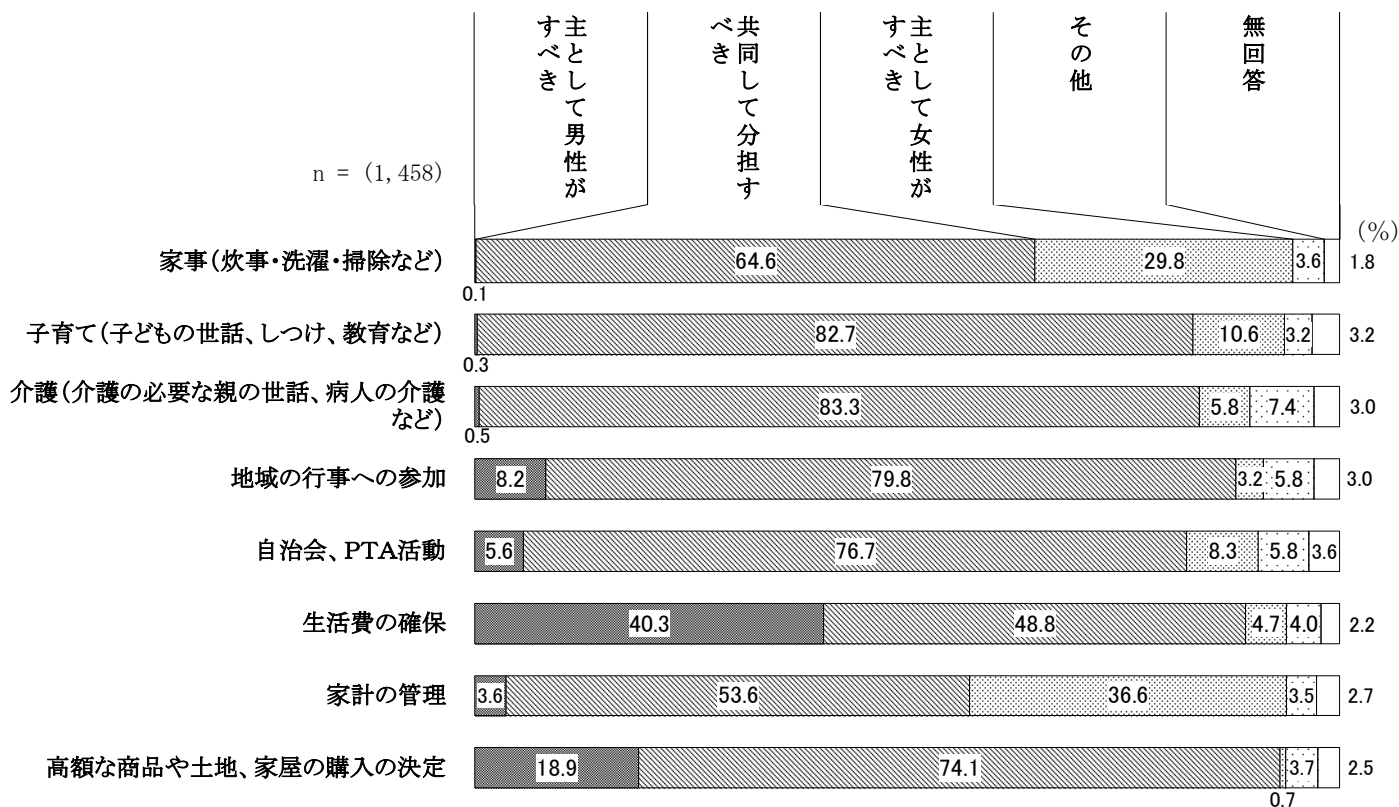


(2) 家庭生活上で担うべき役割分担

◎ 「共同して分担すべき」が多いが、【家事】【家計の管理】【生活費の確保】では性別役割分担意識が強い

問5 次のことについて主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。  
(それぞれについて該当するものに○を1つ)

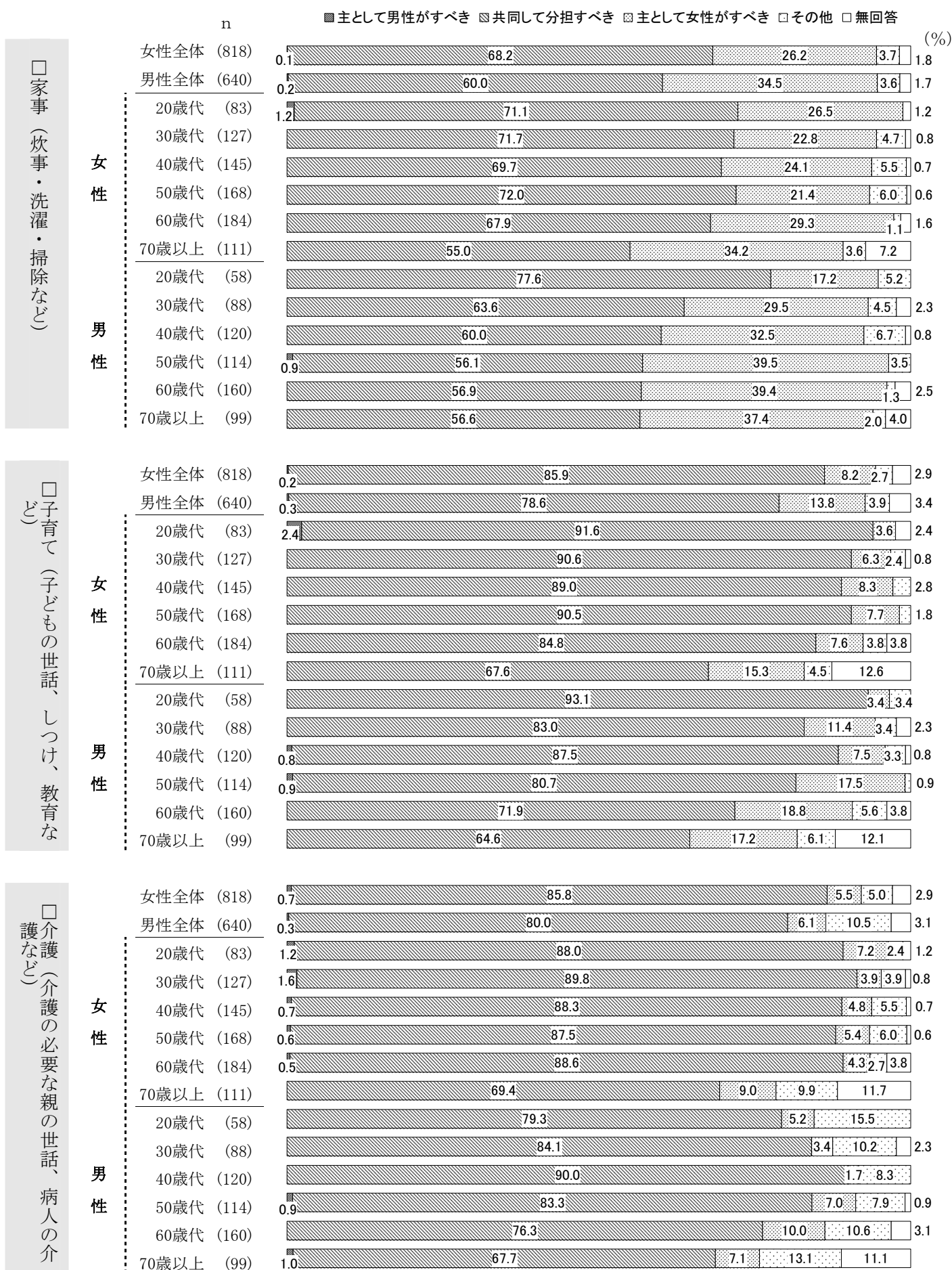
図表2-5 家庭生活上で担うべき役割分担



8つの分野について家庭における役割分担の意向を聞いたところ、すべての分野において「共同して分担すべき」が最も多くなっている。「主として女性がすべき」は【家事】で約3割、【家計の管理】で3割台半ばと多く、「主として男性がすべき」は【生活費の確保】で4割となっている。(図表2-5)

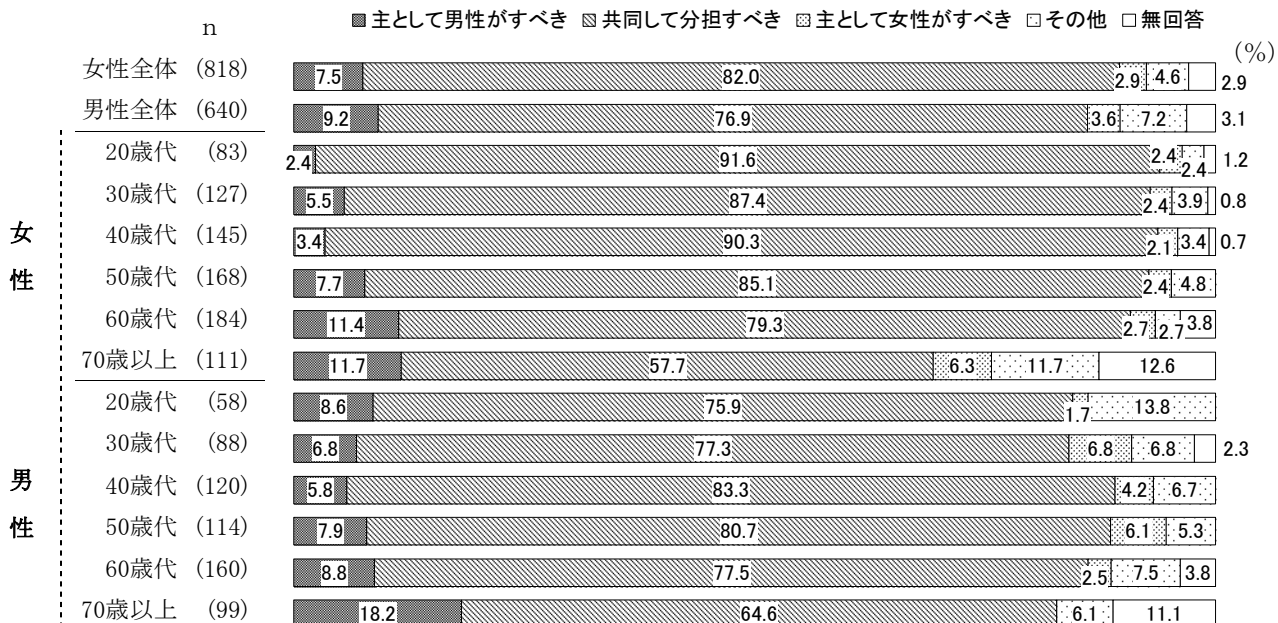


図表2-6 家庭生活上で担うべき役割分担（性別・性／年齢別）

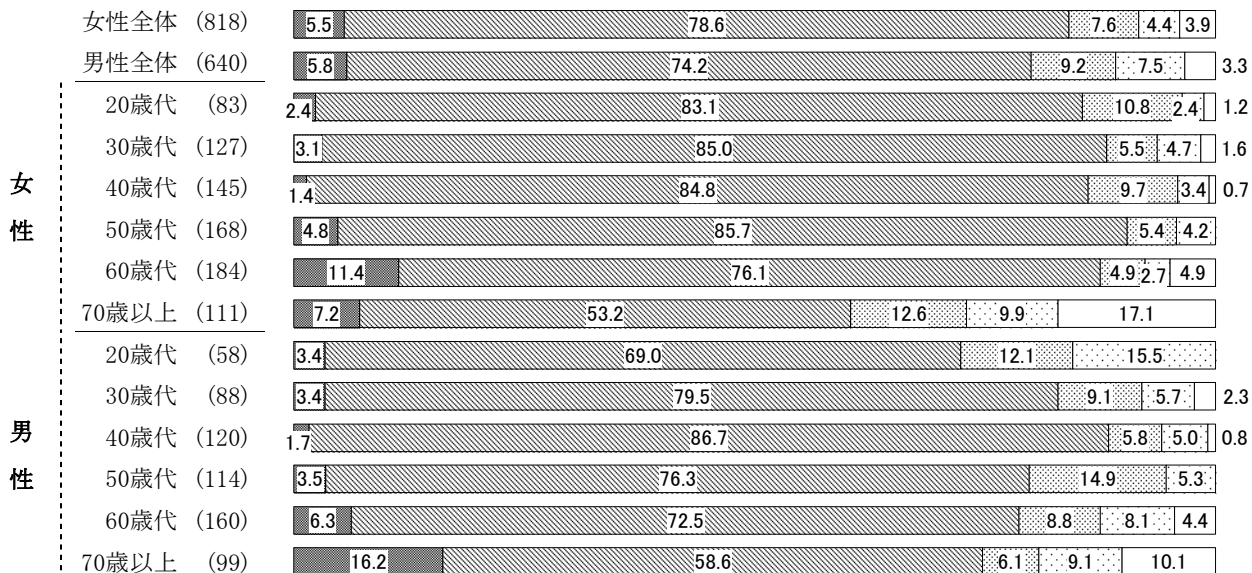


第IV章 調査の結果

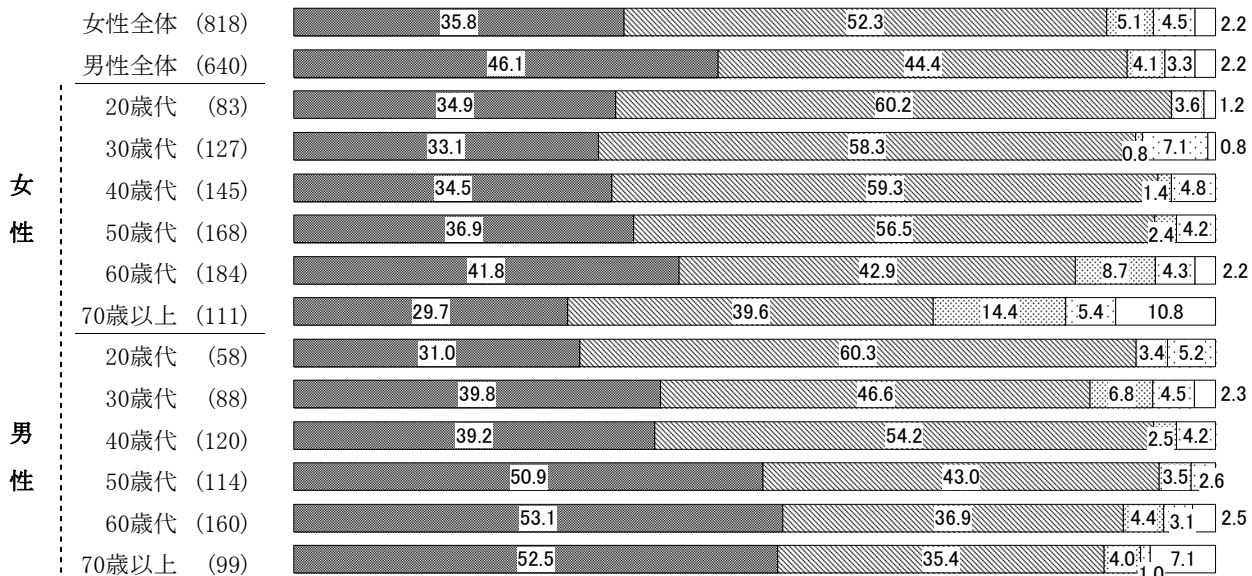
□地域の行事への参加



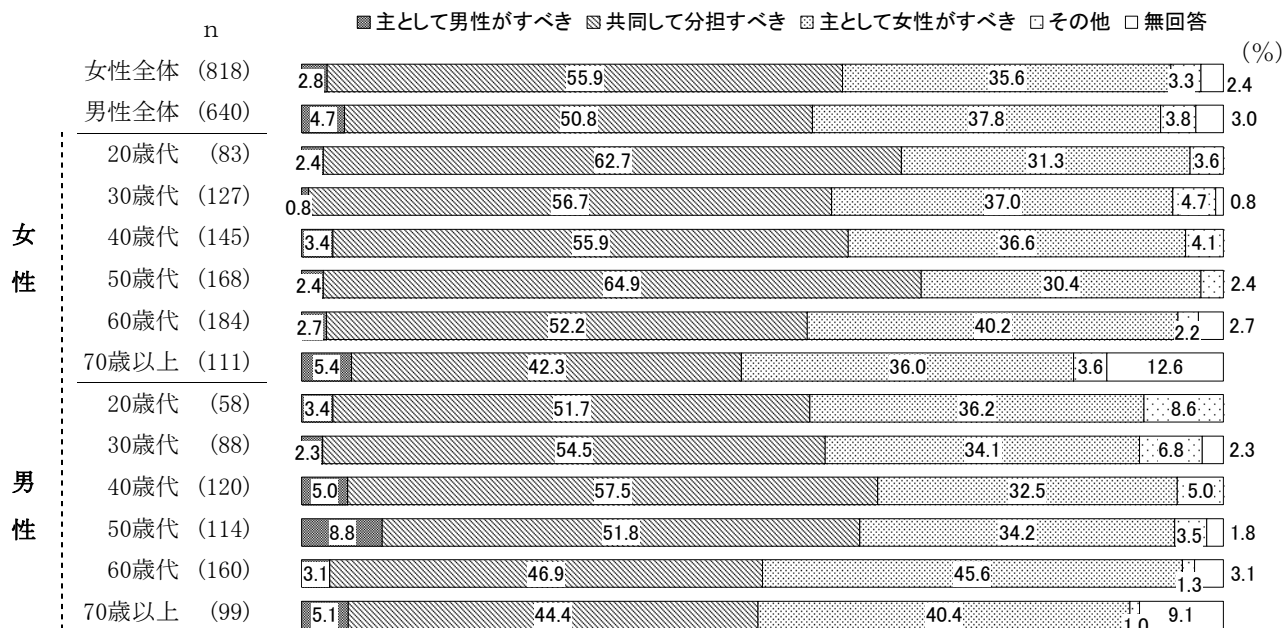
□自治会、PTA活動



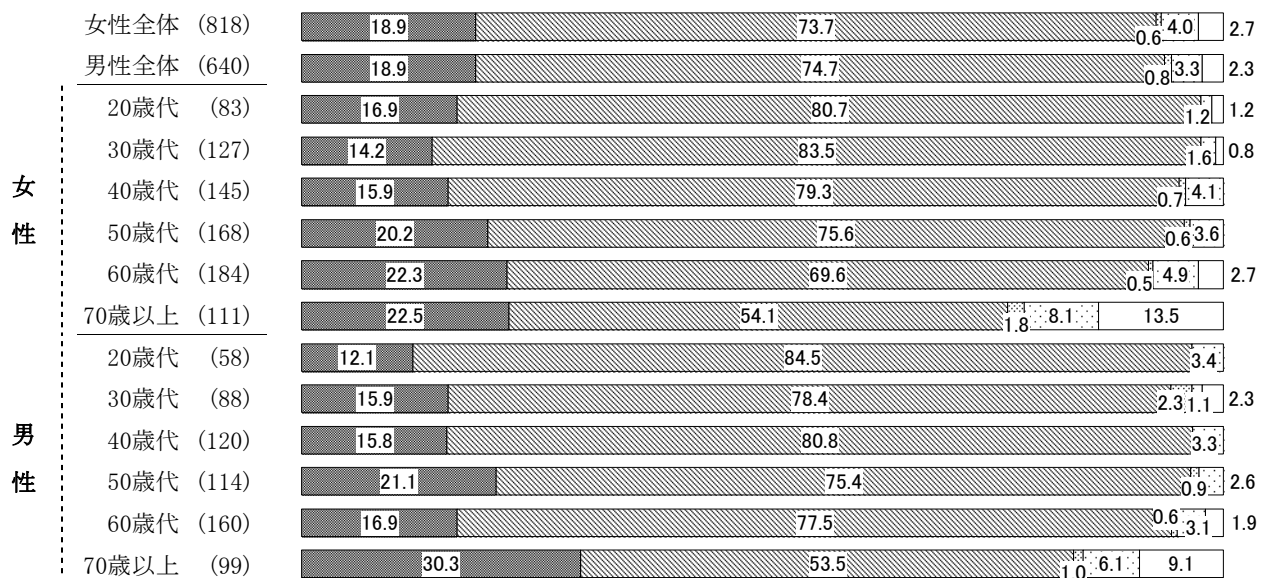
□生活費の確保



□ 家計の管理



□ 高額な商品や土地、家屋の購入の決定



性別でみると、「共同して分担すべき」は、【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】を除いたすべての分野で女性が男性を上回っている。

男女の意識の差の大きいものを分野別にみると、【家事】で「共同して分担すべき」は女性が男性を8ポイントの差で上回っているが、「主として女性がすべき」は男性が女性を8ポイントの差で上回っており、【子育て】も同様の傾向となっている。また、【生活費の確保】で「主として男性がすべき」は男性が女性を10ポイントの差で上回っているが、「共同して分担すべき」は女性が男性を7ポイントの差で上回っている。(図表2-6)

性/年齢別でみると、【家事】で「共同して分担すべき」は、男性の20歳代で8割近くとなっている。「主として女性がすべき」は男性の50~60歳代で4割弱である。【子育て】で「共同して分担すべき」は、20歳代で男女ともに9割を超え、女性の30歳代と50歳代でも9割を超えている。【生活費の確保】で「主として男性がすべき」は、男性の20歳代で3割強だが年齢層が上がるにしたがって漸増し、50

#### 第IV章 調査の結果

～70歳代で半数を超える。一方「共同して分担」は20歳代の6割から年齢層が上がるにしたがって漸減し、70歳以上で3割台半ばとなっている。【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】で「主として男性がすべき」は男性の70歳以上で3割を超えている。(図表2-6)

居住地域別でみると、【家事】で「共同して分担すべき」は、利根地域と秩父地域で7割を超えている。「主として女性がすべき」は、北部地域で4割近くとなっている。【子育て】で「共同して分担すべき」は、川越比企地域と北部地域を除く地域で8割を超えている。「主として女性がすべき」は、北部地域で2割を超えている。【介護】で「共同して分担すべき」は、北部地域と秩父地域を除く地域で8割を超えている。「主として女性がすべき」は、北部地域で1割を超える。【地域の行事への参加】で「主として男性がすべき」は、秩父地域で2割台半ばである。「共同して分担すべき」は、北部地域で8割台半ばとなっている。【自治会、PTA活動】で「共同して分担すべき」は、県央地域で8割を超えている。(図表2-7)

図表2-7 家庭生活で担うべき役割分担（居住地域別）

(%)

		n	主として男性がすべき	共同して分担すべき	主として女性がすべき	その他	無回答
□家事 (炊事・洗濯・掃除など)	全体	1,458	0.1	64.6	29.8	3.6	1.8
	南部地域	128	-	61.7	28.9	7.0	2.3
	南西部地域	136	-	64.0	29.4	2.9	3.7
	東部地域	204	-	67.2	28.4	2.9	1.5
	さいたま地域	256	-	63.3	30.1	5.1	1.6
	県央地域	103	-	68.0	30.1	1.9	-
	川越比企地域	172	-	61.0	32.0	4.1	2.9
	西部地域	167	-	68.3	28.1	3.0	0.6
	利根地域	140	1.4	70.7	25.0	0.7	2.1
	北部地域	112	-	55.4	38.4	4.5	1.8
	秩父地域	27	-	70.4	29.6	-	-
□子育て (子どもの世話、しつけ、教育など)	全体	1,458	0.3	82.7	10.6	3.2	3.2
	南部地域	128	0.8	82.8	8.6	3.9	3.9
	南西部地域	136	-	85.3	8.1	2.2	4.4
	東部地域	204	-	84.3	10.8	2.9	2.0
	さいたま地域	256	0.4	82.4	9.8	5.1	2.3
	県央地域	103	-	83.5	10.7	3.9	1.9
	川越比企地域	172	-	79.1	12.2	4.1	4.7
	西部地域	167	-	87.4	7.8	1.8	3.0
	利根地域	140	1.4	84.3	10.0	1.4	2.9
	北部地域	112	-	74.1	21.4	1.8	2.7
	秩父地域	27	-	81.5	3.7	3.7	11.1

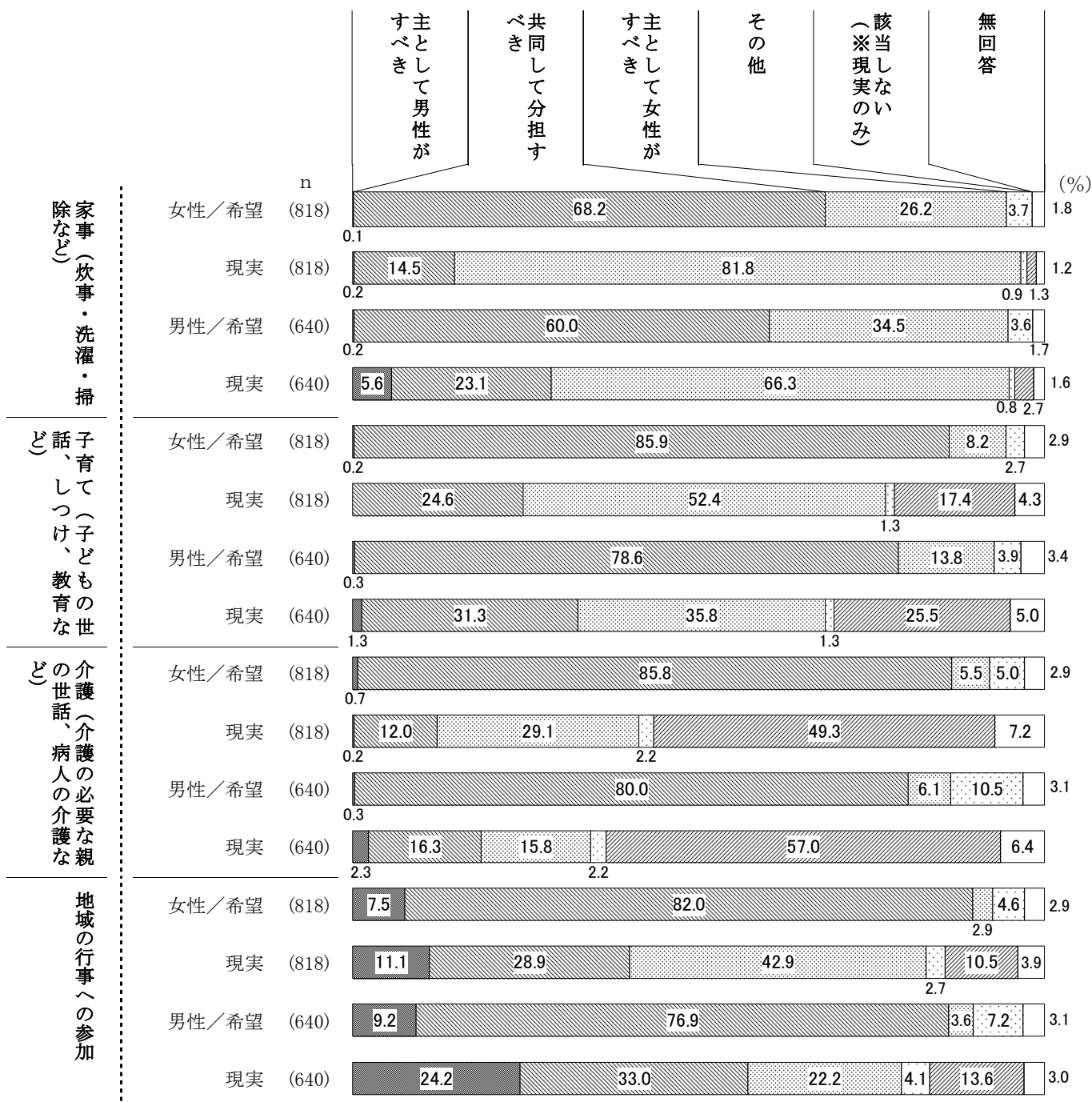
(%)

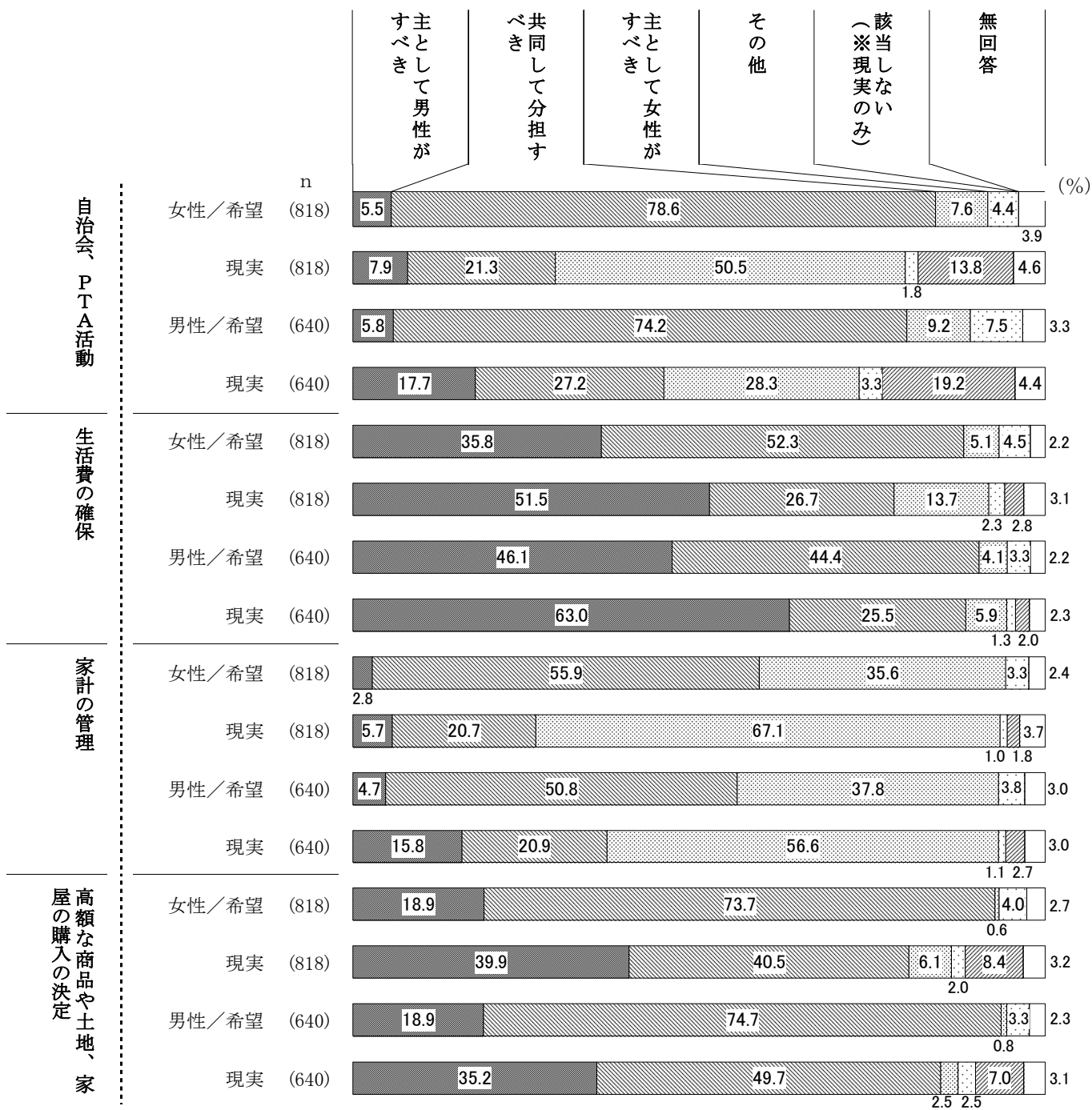
	n	主として男性が すべき	共同して分担す べき	主として女性が すべき	その他	無回答	
□介護（介護などの必要な親の世話、病 人の介護など）	全 体	1,458	0.5	83.3	5.8	7.4	3.0
	南部地域	128	1.6	81.3	4.7	9.4	3.1
	南西部地域	136	-	83.1	6.6	6.6	3.7
	東部地域	204	1.0	85.3	3.9	5.9	3.9
	さいたま地域	256	-	82.8	4.3	10.5	2.3
	県央地域	103	1.0	85.4	3.9	9.7	-
	川越比企地域	172	-	80.8	7.6	6.4	5.2
	西部地域	167	-	86.2	6.0	6.0	1.8
	利根地域	140	2.1	84.3	5.0	6.4	2.1
	北部地域	112	-	78.6	12.5	6.3	2.7
秩父地域	27	-	77.8	7.4	3.7	11.1	
□地域の行事への参加	全 体	1,458	8.2	79.8	3.2	5.8	3.0
	南部地域	128	7.8	77.3	3.9	7.8	3.1
	南西部地域	136	6.6	79.4	3.7	5.1	5.1
	東部地域	204	4.9	80.9	4.4	6.9	2.9
	さいたま地域	256	6.3	79.3	3.5	8.2	2.7
	県央地域	103	8.7	82.5	2.9	4.9	1.0
	川越比企地域	172	9.3	78.5	3.5	4.7	4.1
	西部地域	167	10.2	79.6	3.0	6.0	1.2
	利根地域	140	10.0	80.0	1.4	5.7	2.9
	北部地域	112	8.9	84.8	2.7	0.9	2.7
秩父地域	27	25.9	63.0	-	-	11.1	
□自治会、PTA活動	全 体	1,458	5.6	76.7	8.3	5.8	3.6
	南部地域	128	5.5	72.7	10.9	7.8	3.1
	南西部地域	136	4.4	75.7	9.6	5.9	4.4
	東部地域	204	3.9	76.0	8.8	7.4	3.9
	さいたま地域	256	4.3	77.7	8.6	6.3	3.1
	県央地域	103	2.9	82.5	4.9	7.8	1.9
	川越比企地域	172	8.1	73.3	8.1	5.2	5.2
	西部地域	167	6.6	78.4	7.8	4.8	2.4
	利根地域	140	5.7	79.3	7.1	5.0	2.9
	北部地域	112	9.8	76.8	8.9	1.8	2.7
秩父地域	27	7.4	74.1	-	3.7	14.8	

第IV章 調査の結果

8つの分野について家庭における役割分担の希望と現実を比較したところ、【家事】の希望は「共同して分担すべき」が男女ともに6割を超えるが、現実には「主に女性」が女性で8割強、男性で6割台半ばを超えている。【子育て】、【介護】、【地域の行事への参加】、【自治会、PTA活動】の希望は「共同して分担すべき」が男女ともに7割から8割が多いが、現実には「主に女性」が女性で最も多くなっている。【生活費の確保】の希望は「共同して分担すべき」が女性で半数、男性で4割台半ばとなっているが、現実には「主として男性」が女性で半数、男性で6割を超える。【家計の管理】の希望は「共同して分担すべき」が男女ともに半数を超えているが、現実には「主として女性」が女性で6割台半ばを超え、男性で5割台半ばを超える。【高額な商品や土地、家屋の購入や決定】の希望は「共同して分担すべき」が男女ともに7割を超えるが、現実には「主として男性」が女性で4割、男性で3割台半ばである。(図表2-8)

図表2-8 家庭生活で担うべき役割分担（希望と現実との比較）



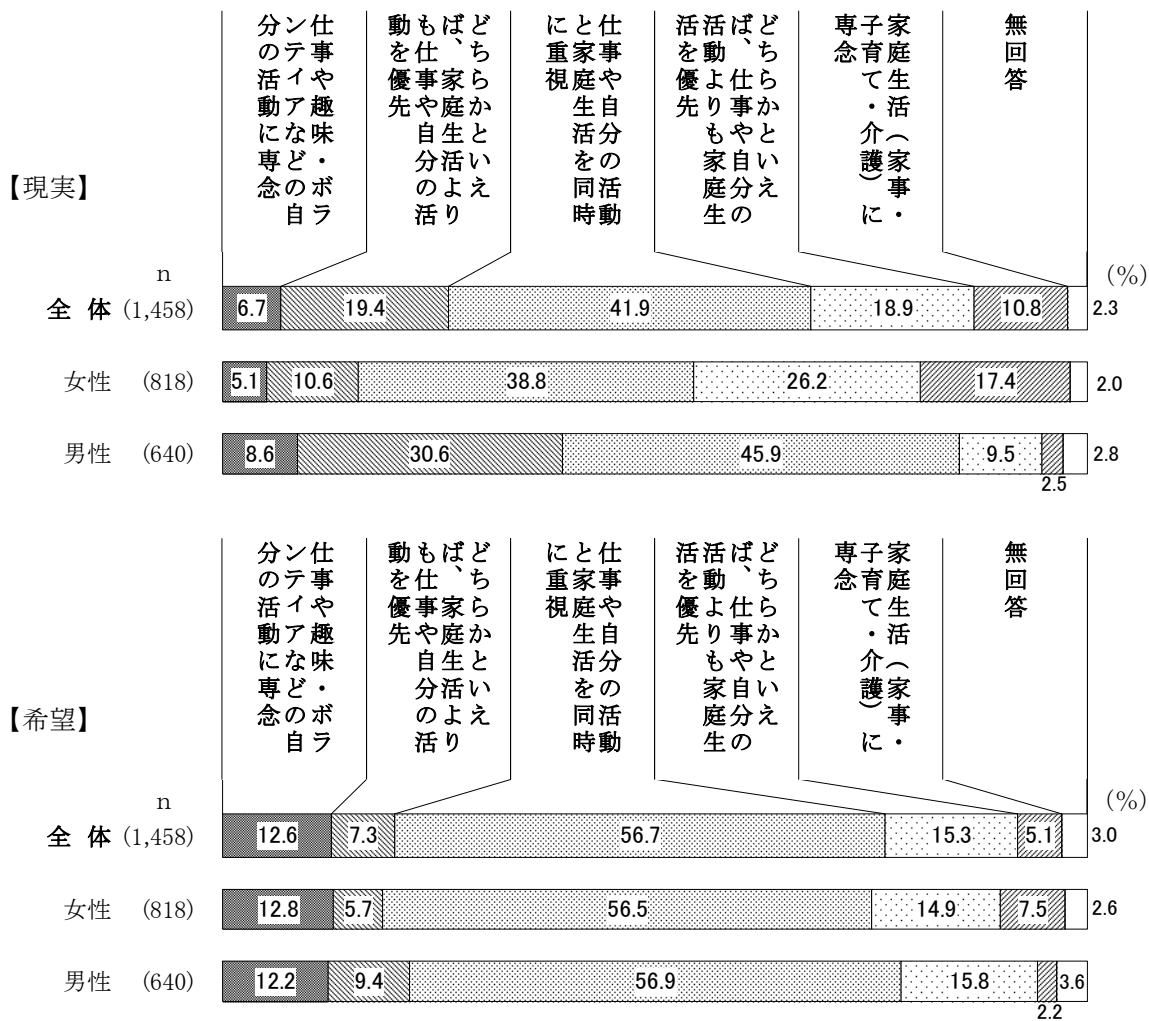


(3) 家庭生活の優先度

◎ 【希望】では、男女とも「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が半数

問6 家庭生活（家事・子育て・介護）の考え方についてうかがいます。  
 「現実」では何を優先していますか。また「希望」では何を優先したいですか。  
 （○はそれぞれに1つ）

図表2-9 家庭生活の優先度



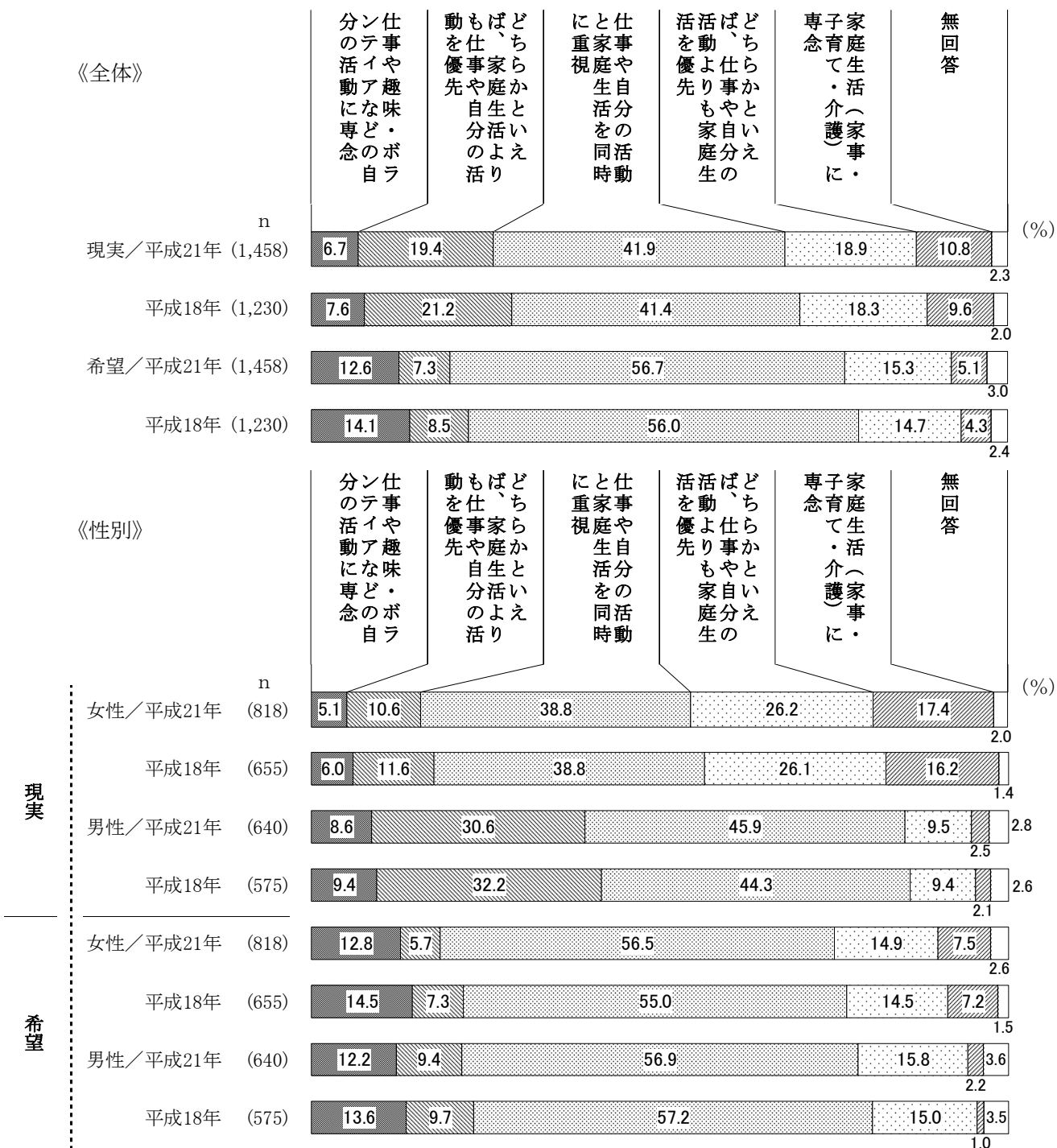
家庭生活の優先度について現実と希望を性別でみると、【現実】では男女とも「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」（女性38.8%、男性45.9%）が最も多いが、次に女性は「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」（26.2%）、男性は「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先」（30.6%）が多くなっており、女性は家庭生活を優先、男性は仕事や自分の活動を優先している。

一方、【希望】では、男女とも「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」（女性56.5%、男性56.9%）が半数を超えており、仕事や自分の活動と家庭生活の両立を希望している。（図表2-9）



平成18年調査と比較すると、大きな変化はみられないが、【現実】と【希望】で男女ともに「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」と「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先」が微減している。(図表2-10)

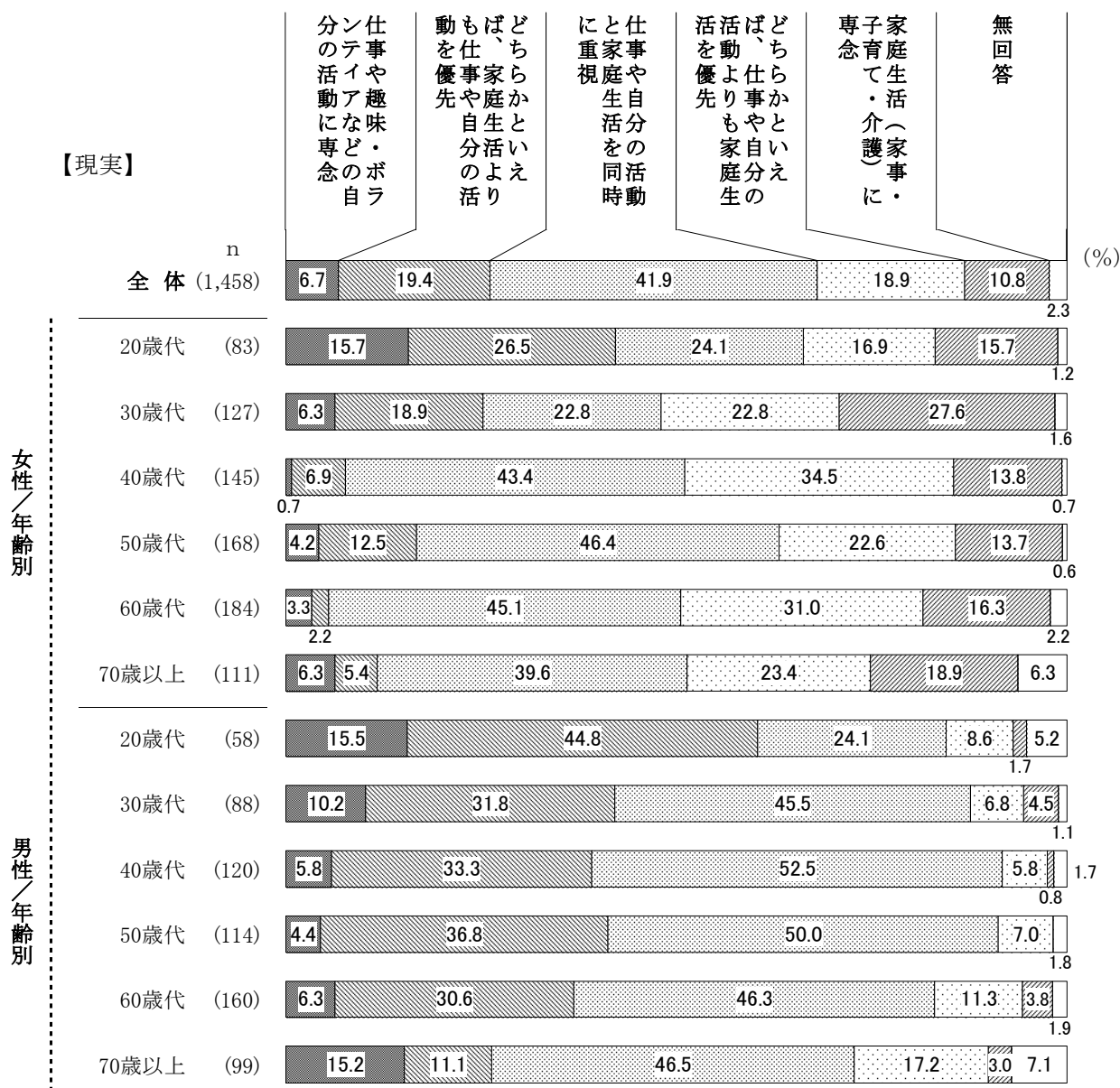
図表2-10 家庭生活の優先度 (平成18年調査との比較)



第IV章 調査の結果

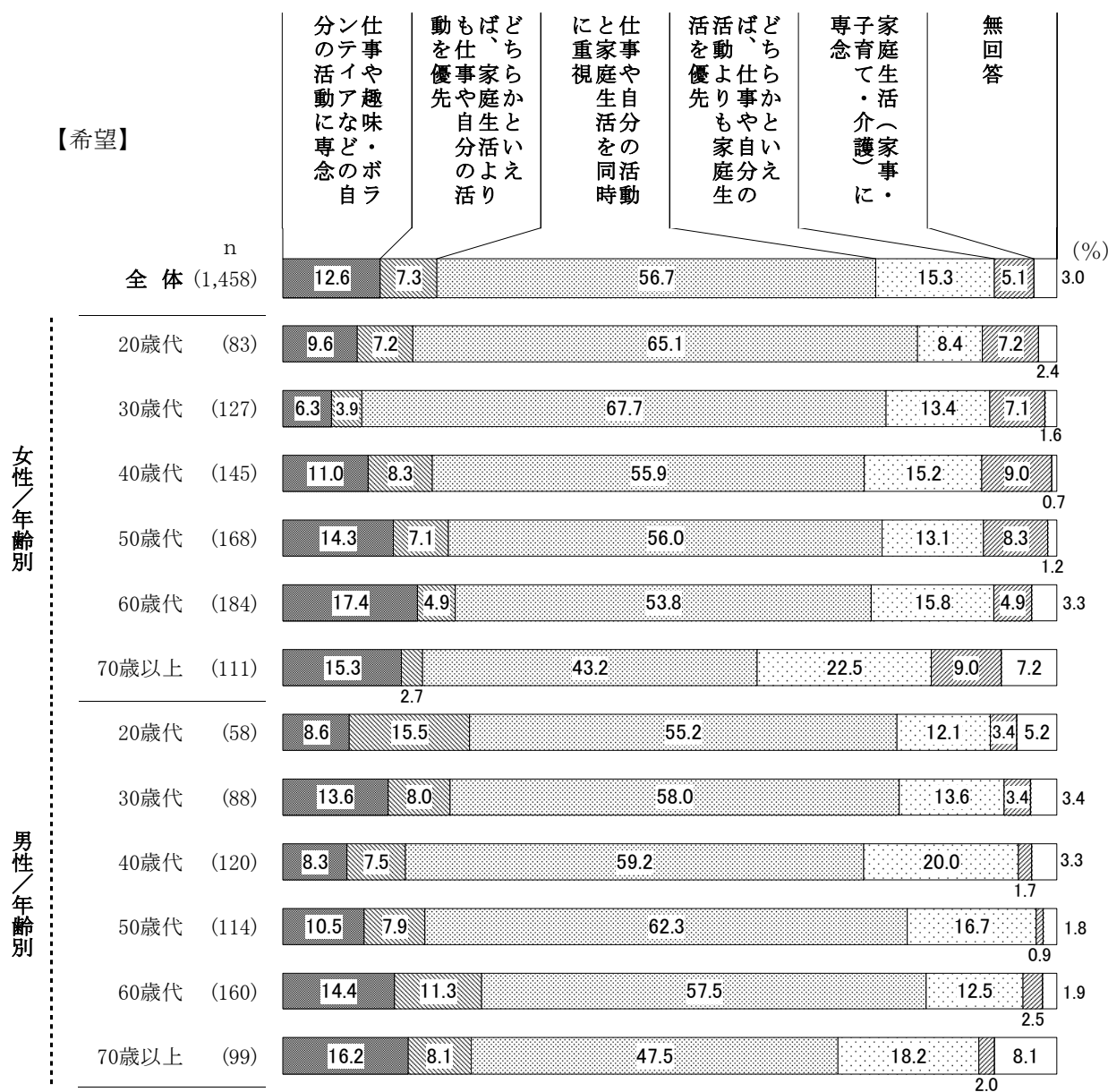
性／年齢別で見ると、【現実】では「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」が男女ともに20歳代、男性の70歳以上で1割台半ばである。「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先」は男性の20歳代で4割台半ばと多くなっている。一方、「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」は女性の40歳代と60歳代で3割を超え、「家庭生活（家事・子育て・介護）に専念」は女性の30歳代で3割近くとなっている。（図表2-11）

図表2-11 家庭生活の優先度（性／年齢別）



【希望】では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が女性の20～30歳代で6割台半ばを超え、男性の50歳代で6割強となっている。「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」が女性の70歳以上で2割強、男性の40歳代で2割となっている。(図表2-12)

図表2-12 家庭生活の優先度(性/年齢別)



第IV章 調査の結果

居住地域別でみると、【現実】では「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」は南部地域と秩父地域で1割を超える。「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」は南部地域、川越比企地域、北部地域で4割台半ばを超えている。

【希望】では「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」は南西部地域で2割に近い。「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」はさいたま地域、県央地域、利根地域、秩父地域で6割を超えている。「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」は東部地域、西部地域、北部地域で2割近くとなっている。(図表2-13)

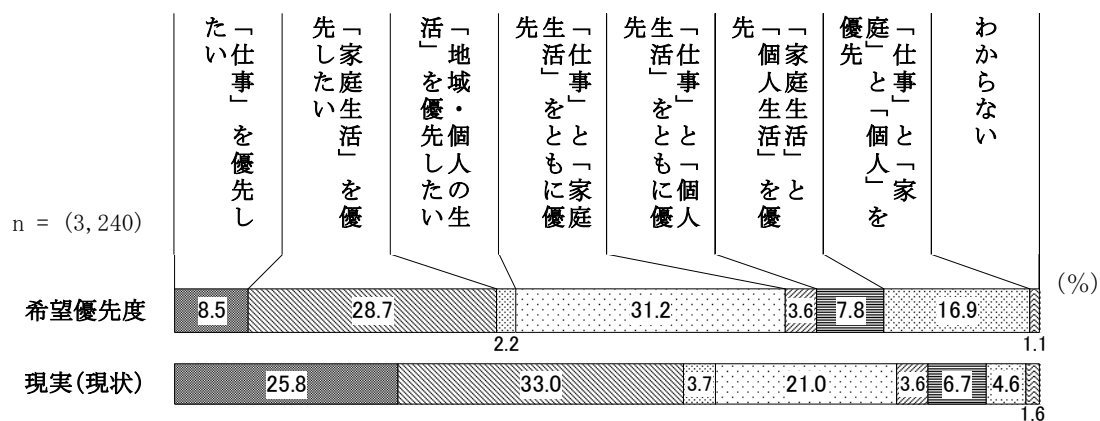
図表2-13 家庭生活の優先度（居住地域別）

(%)

		n	活動に専念 仕事や趣味・ボラン ティアなどの自分の	どちらかといえば、 家庭生活よりも仕事 や自分の活動を優先	視 家庭生活を同時に重 仕事や自分の活動と	どちらかといえば、 仕事や自分の活動よ りも家庭生活を優先	家庭生 活（家事・子 育て・介護）に専念	無 回 答
【現実】	全 体	1,458	6.7	19.4	41.9	18.9	10.8	2.3
	南部地域	128	10.2	9.4	46.1	19.5	10.2	4.7
	南西部地域	136	7.4	25.0	41.9	14.7	8.1	2.9
	東部地域	204	5.4	22.5	38.7	20.6	10.8	2.0
	さいたま地域	256	7.4	19.1	39.8	17.6	13.3	2.7
	県央地域	103	5.8	20.4	39.8	18.4	13.6	1.9
	川越比企地域	172	6.4	19.2	47.1	16.3	9.3	1.7
	西部地域	167	6.0	21.0	40.1	20.4	10.8	1.8
	利根地域	140	7.9	16.4	40.0	22.9	10.0	2.9
	北部地域	112	2.7	21.4	47.3	18.8	9.8	-
	秩父地域	27	11.1	18.5	29.6	22.2	14.8	3.7
【希望】	全 体	1,458	12.6	7.3	56.7	15.3	5.1	3.0
	南部地域	128	11.7	4.7	57.8	14.1	7.0	4.7
	南西部地域	136	18.4	8.1	50.0	15.4	3.7	4.4
	東部地域	204	14.2	11.3	48.0	18.1	5.9	2.5
	さいたま地域	256	10.2	5.1	61.7	14.8	5.1	3.1
	県央地域	103	13.6	8.7	63.1	9.7	2.9	1.9
	川越比企地域	172	12.8	8.7	54.7	14.0	7.0	2.9
	西部地域	167	9.0	8.4	58.1	18.6	4.2	1.8
	利根地域	140	10.7	3.6	62.1	15.0	5.0	3.6
	北部地域	112	15.2	9.8	52.7	17.9	2.7	1.8
	秩父地域	27	14.8	-	63.0	7.4	11.1	3.7

参 考 内閣府「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方

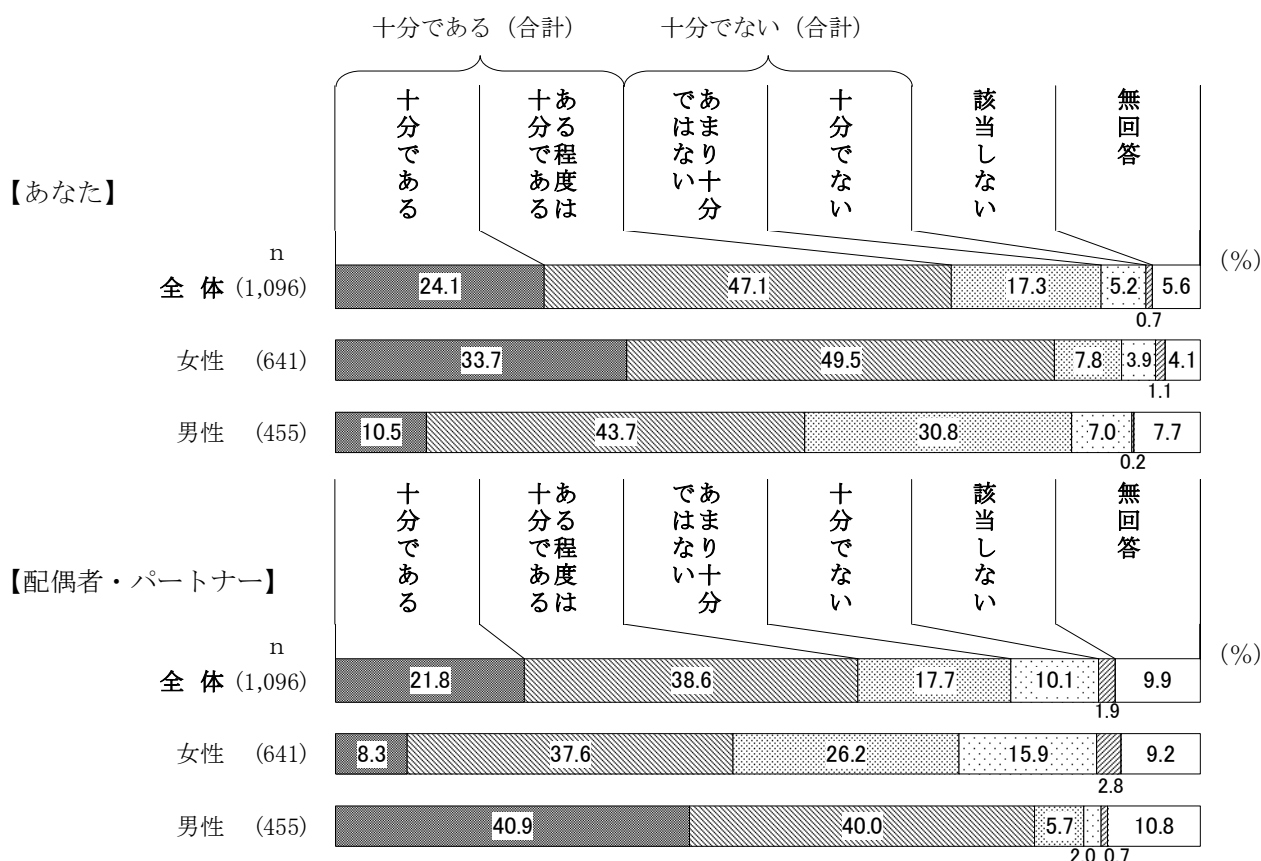


(4) 子育てへのかかわり

◎ 全体で《十分である》が本人は7割を超え、配偶者・パートナーは6割を超えているものの、配偶者・パートナーで女性の4割強が《十分でない》とするなど、男女間の隔たりがある

問7 子育て経験のある方にうかがいます。(子育て経験のない方は、問9へ)  
 あなたと配偶者・パートナーの子育てのかかわりは十分だと思いますか。  
 (〇はそれぞれに1つ)

図表2-14 子育てへのかかわり



※この設問は、『F9 子どもの有無』で「いる」と回答した人のみを対象とした。

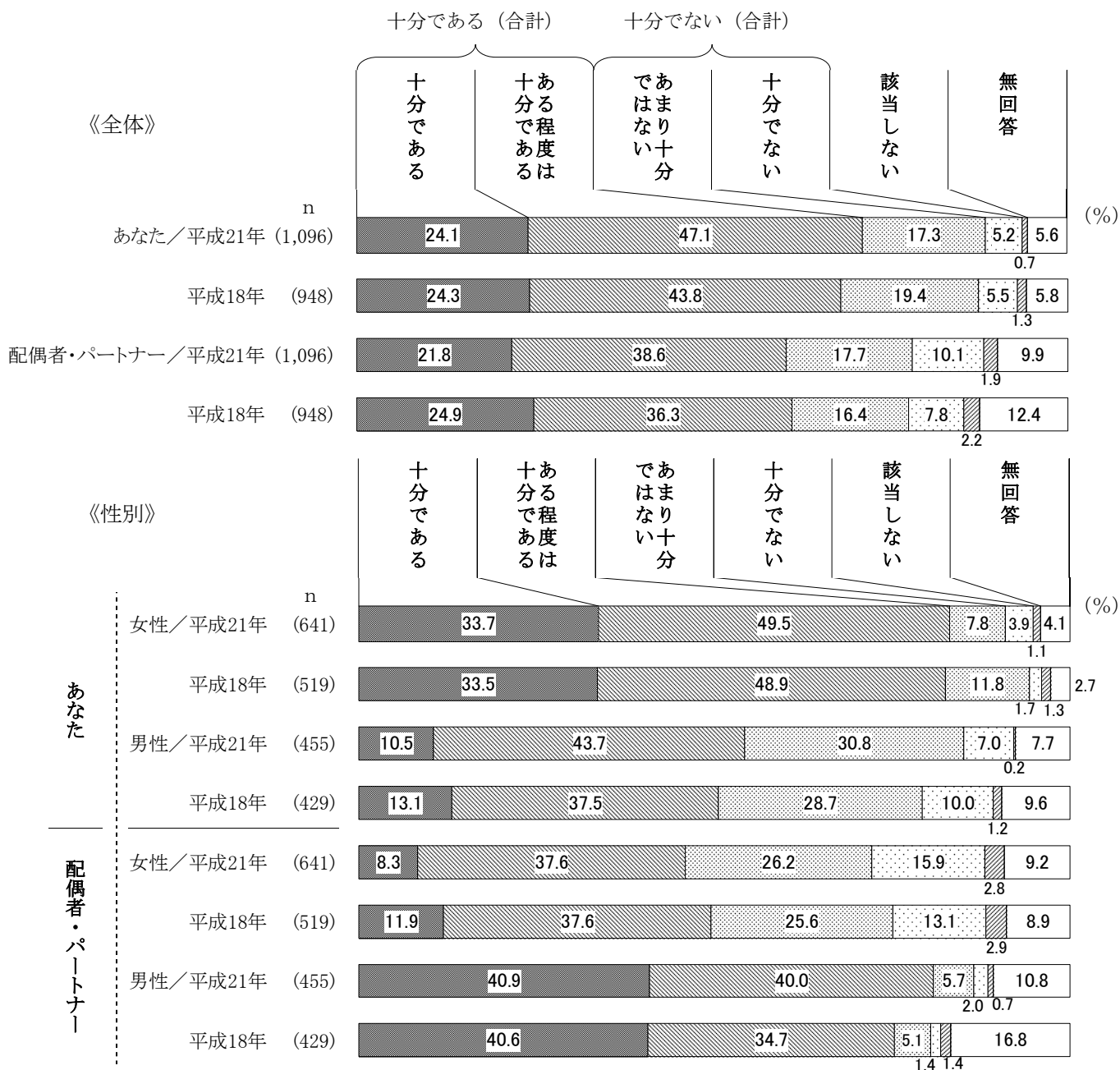
子育てのかかわり方について聞いたところ、【あなた】(自分自身)については、「十分である」と「ある程度は十分である」を合わせた《十分である(合計)》(71.2%)が7割を超えている。

性別で見ると、《十分である(合計)》(女性83.2%、男性54.2%)は、女性が男性を29ポイントと大きく上回っている。一方「あまり十分でない」と「十分でない」を合わせた《十分でない(合計)》(女性11.7%、男性37.8%)は男性が女性を26ポイントと大きく上回っている。

また、【配偶者・パートナー】についても同様の傾向を示しており、《十分である(合計)》(女性45.9%、男性80.9%)で男性が女性を35ポイント上回っている。女性の《十分でない(合計)》では、【配偶者・パートナー】の子育てのかかわり方に4割を超える女性が不満を持っている。(図表2-14)

平成18年調査と比較すると、全体では大きな変化はみられないが、性別でみると【あなた】の《十分である（合計）》が男性で増加している。また、【配偶者・パートナー】の《十分である（合計）》が女性で減少しているのに対し、男性で増加している。（図表2-15）

図表2-15 子育てへのかかわり（平成18年調査との比較）



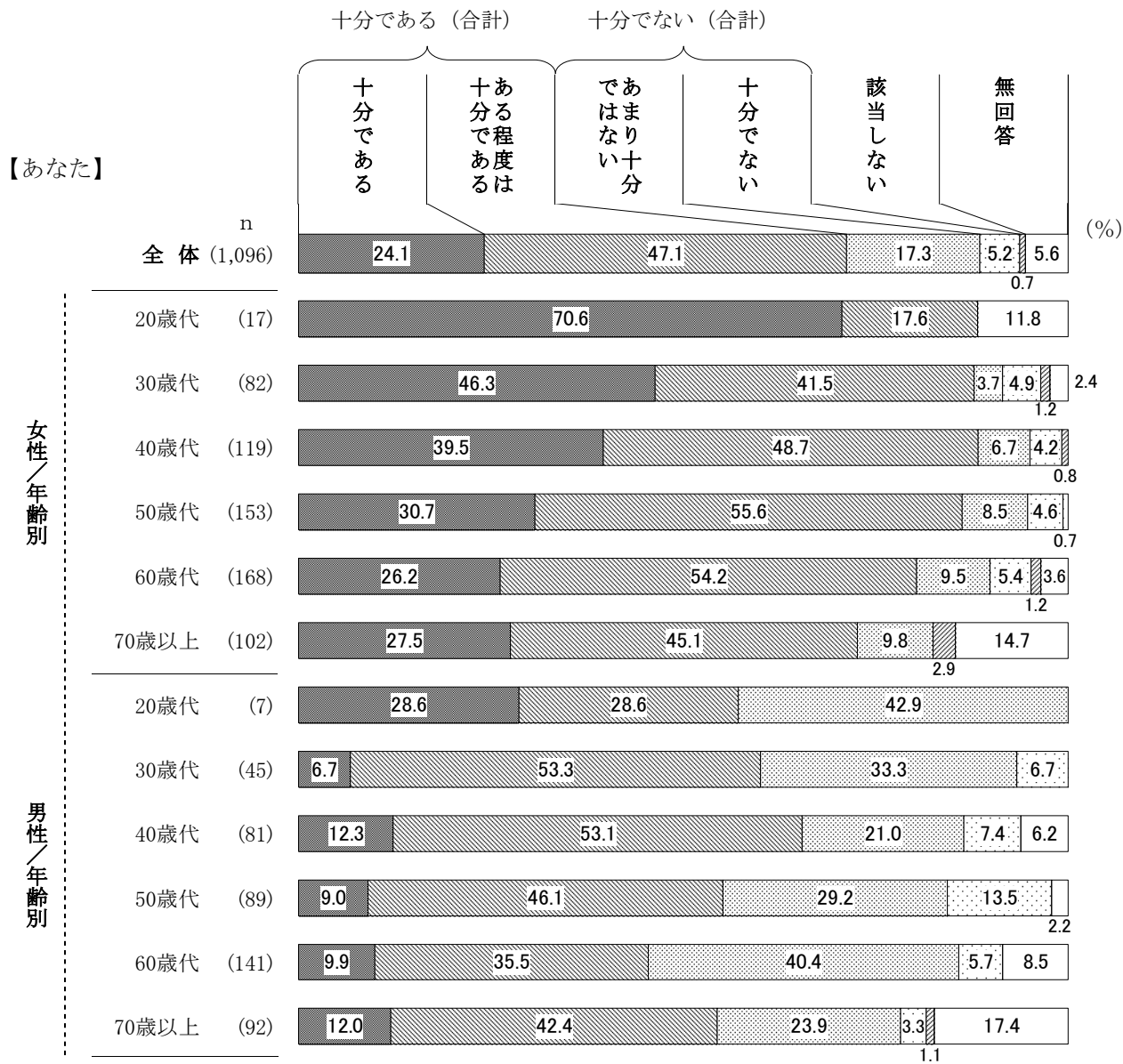
※この設問は、『F9 子どもの有無』で「いる」と回答した人のみを対象とした。

第IV章 調査の結果

【あなた】（自分自身）を性／年齢別で見ると、《十分である（合計）》は、女性の30～60歳代で8割を超えて多くっており、すべての年代で女性が男性を上回っている。男性では、60歳代を除いた年代で《十分である（合計）》が半数を超えている。（図表2-16）

※基数が不足しているため、性／年齢別での女性および男性の20歳代は参考扱いとする。

図表2-16 子育てへのかかわり（性／年齢別）



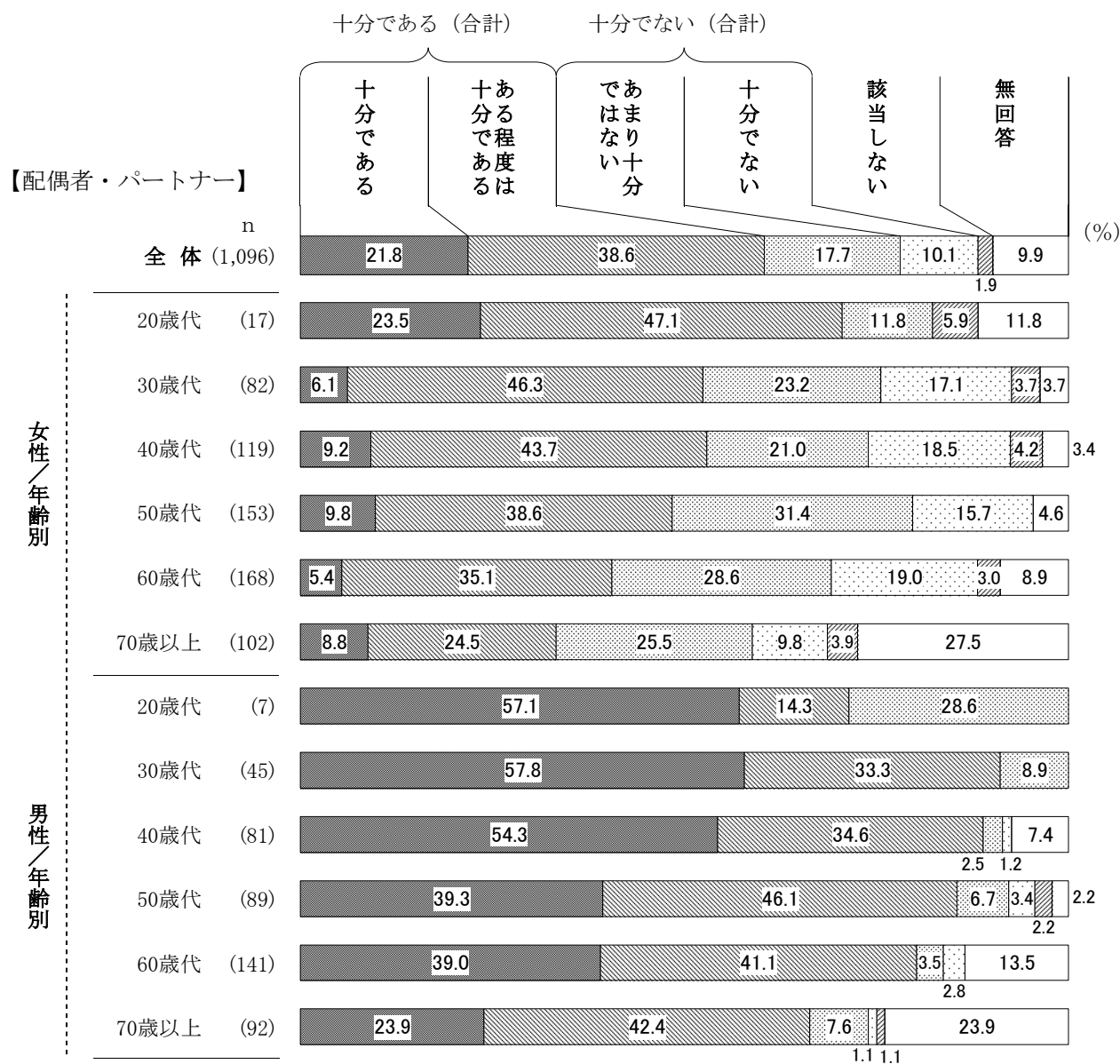
※この設問は、『F 9 子どもの有無』で「いる」と回答した人のみを対象とした。



【配偶者・パートナー】を性／年齢別でみると、【あなた】と同様の傾向を示しており、《十分である（合計）》はすべての年代で男性が女性を上回っている。一方、《十分でない（合計）》は女性の30～70歳代で3割を超えており、特に50～60歳代で4割台半ばを超えて多くなっている。（図表2-17）

※基数が不足しているため、性／年齢別での女性および男性の20歳代は参考扱いとする。

図表2-17 子育てへのかかわり（性／年齢別）



※この設問は、『F9 子どもの有無』で「いる」と回答した人のみを対象とした。

第IV章 調査の結果

居住地域別でみると、【あなた】では《十分である（合計）》は東部地域で7割台半ばを超えている。一方、《十分でない（合計）》はさいたま地域で2割台半ばと比較的高くなっている。

【配偶者・パートナー】では《十分である（合計）》はさいたま地域で6割台半ばとなっている。一方、《十分でない（合計）》は県央地域と西部地域で3割を超えている。（図表2-18）

※基数が不足しているため、居住地域別の秩父地域は参考扱いとする。

図表2-18 子育てへのかかわり（居住地域別）

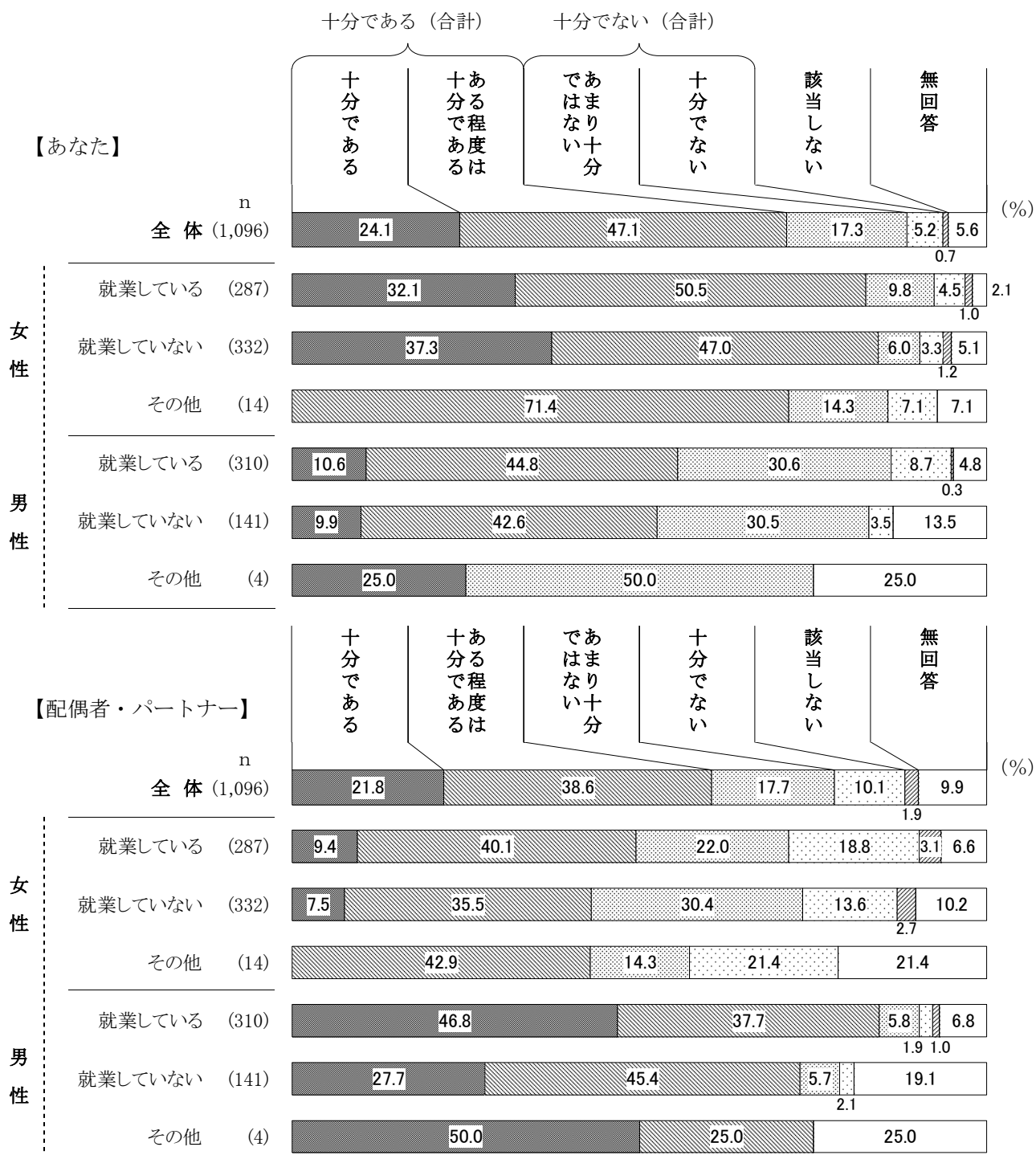
		n	十分である（合計） 十分でない（合計）				該当しない	無回答
			十分である	ある程度は十分である	あまり十分ではない	十分でない		
							(%)	
【あなた】	全体	1,096	24.1	47.1	17.3	5.2	0.7	5.6
	南部地域	94	25.5	44.7	20.2	3.2	-	6.4
	南西部地域	97	20.6	44.3	18.6	7.2	1.0	8.2
	東部地域	155	21.9	54.8	16.8	2.6	0.6	3.2
	さいたま地域	182	30.2	40.1	22.5	3.3	-	3.8
	県央地域	84	28.6	45.2	15.5	6.0	1.2	3.6
	川越比企地域	132	19.7	53.0	12.1	7.6	-	7.6
	西部地域	126	26.2	42.1	15.9	7.1	1.6	7.1
	利根地域	104	24.0	49.0	16.3	4.8	1.9	3.8
	北部地域	92	19.6	47.8	16.3	7.6	1.1	7.6
	秩父地域	23	13.0	60.9	13.0	4.3	-	8.7
【配偶者・パートナー】	全体	1,096	21.8	38.6	17.7	10.1	1.9	9.9
	南部地域	94	20.2	39.4	19.1	6.4	2.1	12.8
	南西部地域	97	20.6	39.2	17.5	10.3	3.1	9.3
	東部地域	155	15.5	47.1	18.7	10.3	1.3	7.1
	さいたま地域	182	25.3	39.6	15.9	8.8	1.6	8.8
	県央地域	84	27.4	32.1	19.0	13.1	1.2	7.1
	川越比企地域	132	25.8	31.8	20.5	9.8	1.5	10.6
	西部地域	126	19.0	34.9	19.0	13.5	3.2	10.3
	利根地域	104	20.2	40.4	19.2	7.7	2.9	9.6
	北部地域	92	23.9	37.0	12.0	13.0	1.1	13.0
	秩父地域	23	21.7	43.5	4.3	8.7	-	21.7

※この設問は、『F9 子どもの有無』で「いる」と回答した人のみを対象とした。

性／職業の有無別でみると、【あなた】（自分自身）では《十分である（合計）》が男性では就業していない人よりも就業している人でやや多く、5割台半ばを超えている。

また、【配偶者・パートナー】では《十分である（合計）》が男女ともに就業していない人よりも就業している人でやや多く、特に男性で8割台半ばとなっている。（図表2-19）

図表2-19 子育てへのかかわり（性／職業の有無別）



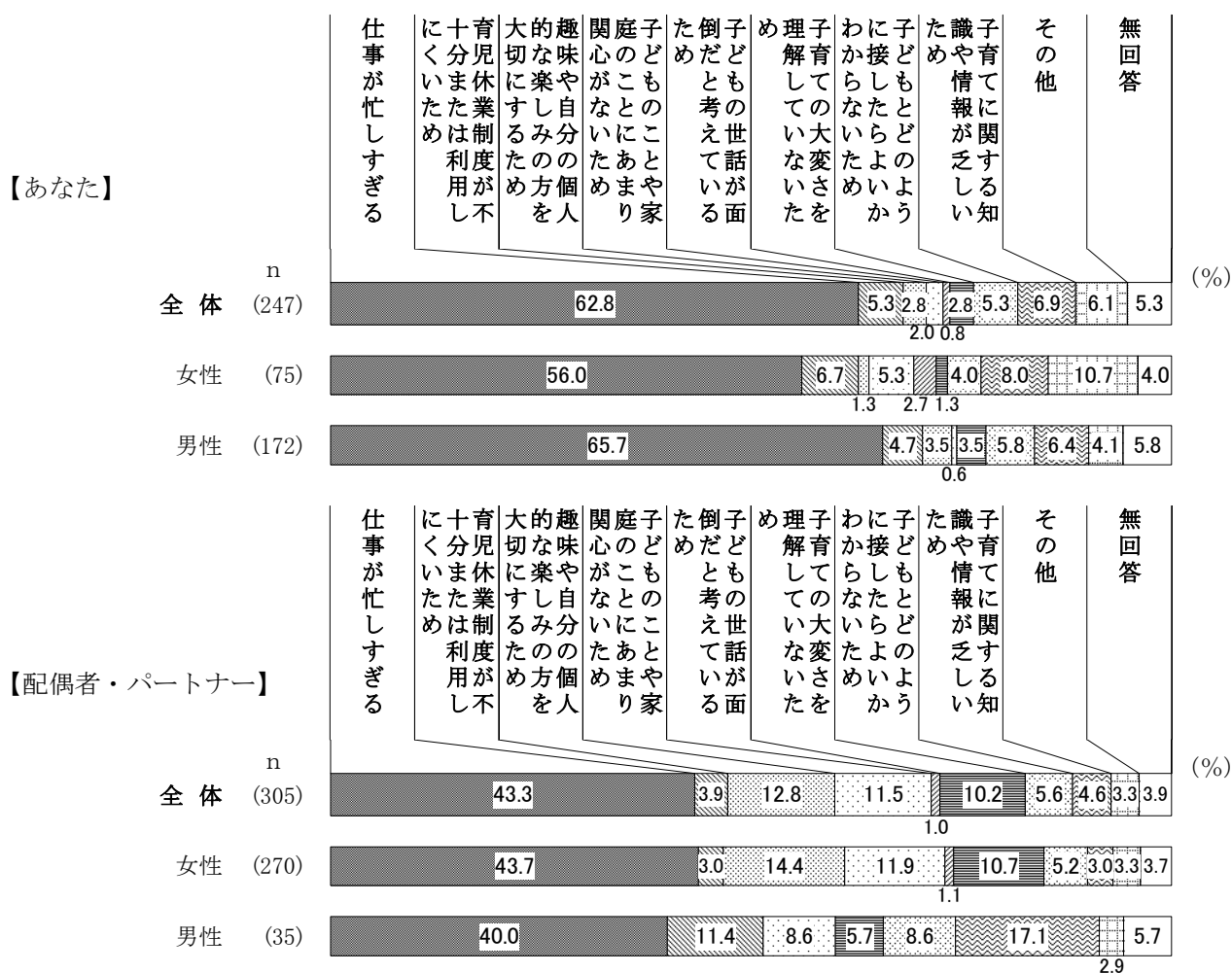
※この設問は、『F9 子どもの有無』で「いる」と回答した人のみを対象とした。

(5) 子育てへのかかわりが十分でない原因

◎ かかわりが十分でない理由は仕事の忙しさが大きく影響している

(問7で「3. あまり十分ではない」または「4. 十分でない」とお答えの方にうかがいます)  
 問8 かかわりが十分でないのは何が原因であると思いますか。(〇はそれぞれに1つ)

図表2-20 子育てへのかかわりが十分でない原因



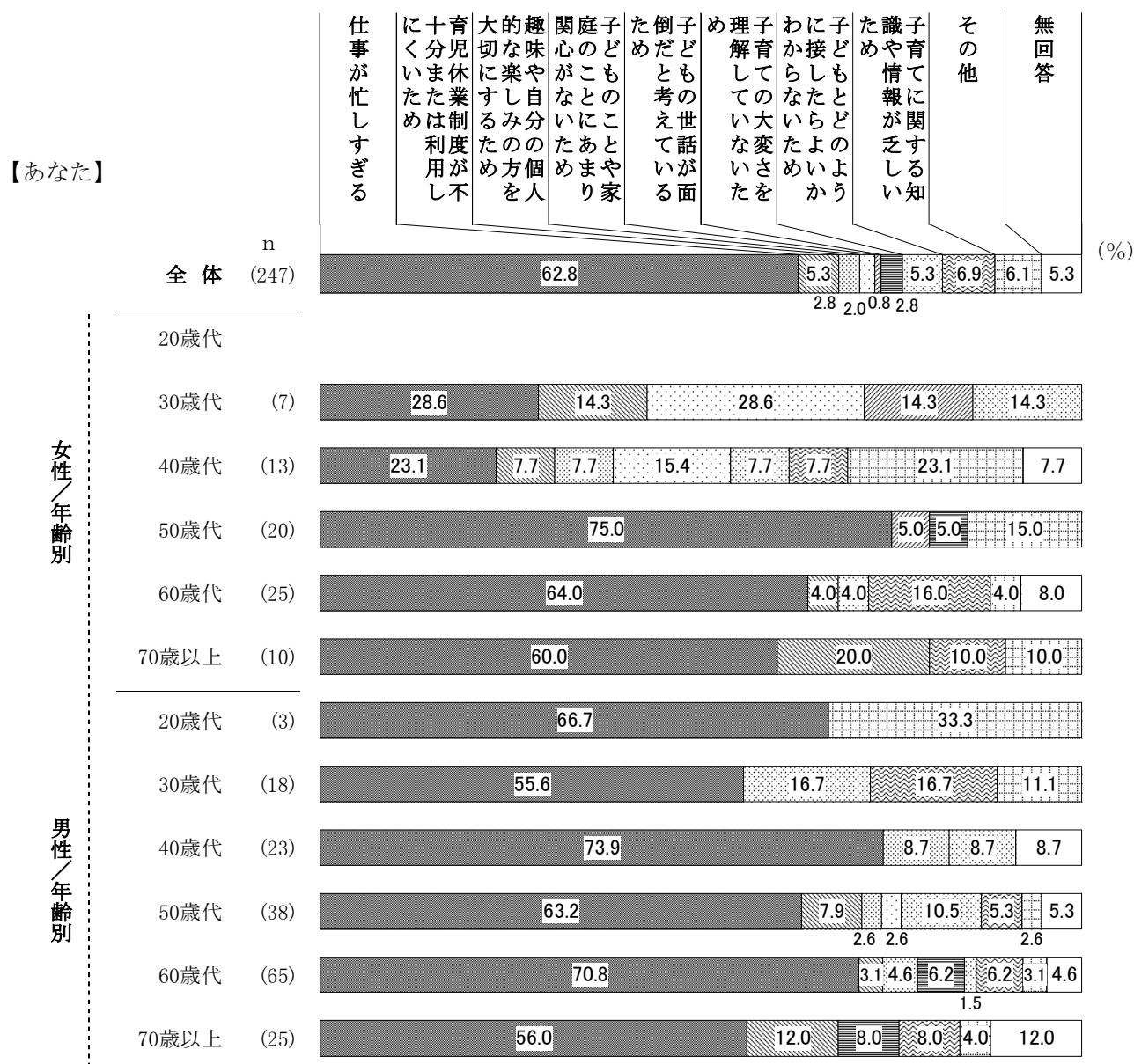
子育てへのかかわりが十分でない原因について聞いたところ、【あなた】(自分自身) (62.8%)、【配偶者・パートナー】(43.3%)ともに「仕事が多すぎる」が最も多くなっている。

性別でみると、【あなた】では「仕事が多すぎる」(女性56.0%、男性65.7%)で男性が女性を9ポイント上回っている。【配偶者・パートナー】では、「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」(女性14.4%、男性0.0%)で女性が14ポイント上回っている。一方、「子育てに関する知識や情報が乏しいため」(女性3.0%、男性17.1%)では男性が14ポイント上回っている。(図表2-20)

【あなた】（自分自身）を性／年齢別でみると、「仕事が忙しすぎる」は男性の60歳代で7割、50歳代で6割を超えている。また、「子どもとどのように接したらよいかわからないため」は男性の50歳代で1割となっている。（図表2-21）

※基数が不足しているため、性／年齢別での女性すべて、男性の20～40歳代、70歳以上は参考扱いとする。

図表2-21 子育てへのかかわりが十分でない原因（性／年齢別）

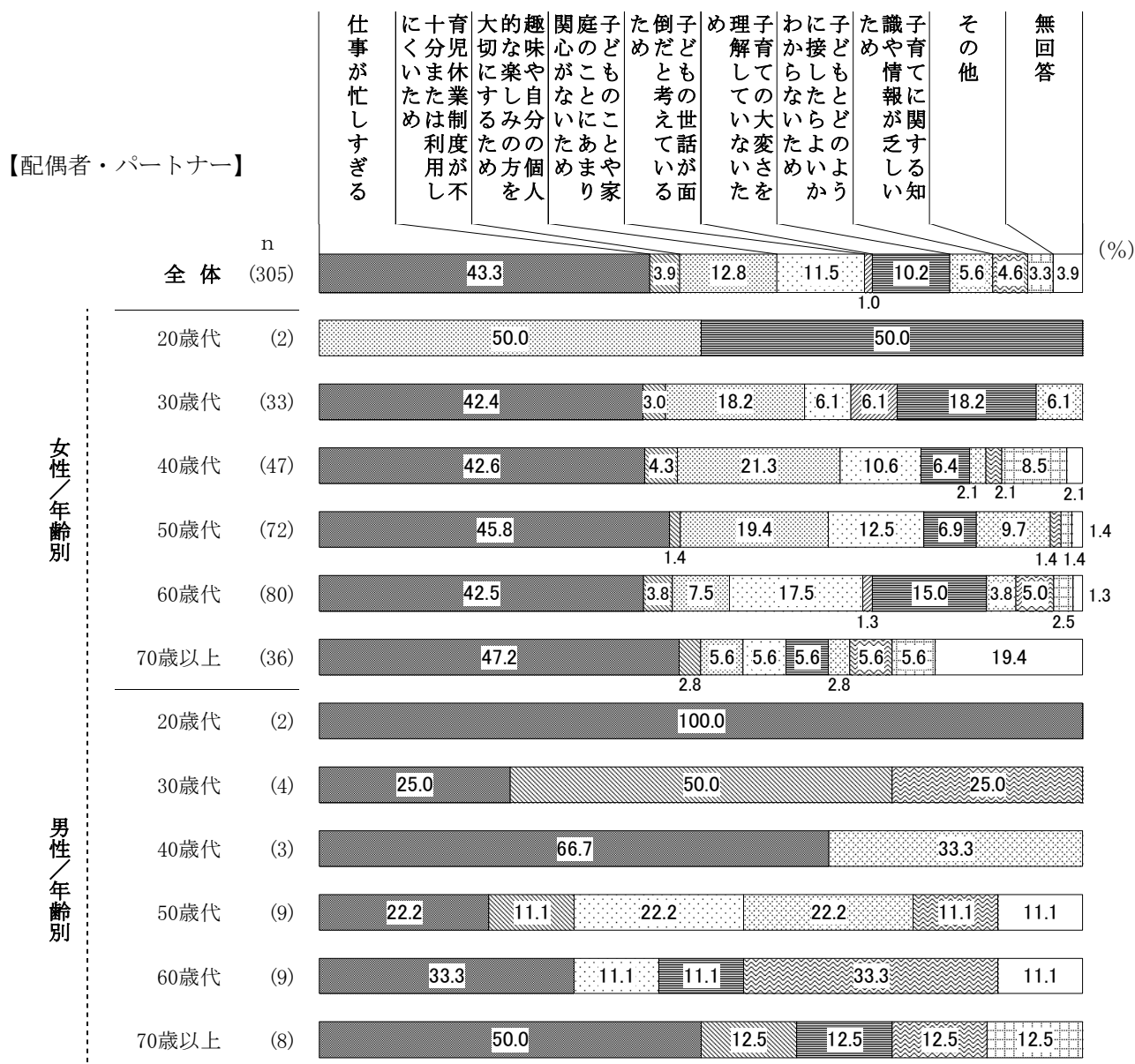


第IV章 調査の結果

【配偶者・パートナー】を性／年齢別でみると、女性のすべての層で「仕事が忙しすぎる」が最も多くなっている。「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」は女性の30～50歳代で2割前後である。「子どものことや家庭のことにあまり関心がないため」は女性の60歳代で1割台半ばを超えている。「子育ての大変さを理解していないため」は女性の30歳代で2割近い。(図表2-22)

※基数が不足しているため、性／年齢別での女性の20歳代、男性すべては参考扱いとする。

図表2-22 子育てへのかかわりが十分でない原因(性／年齢別)



居住地域別でみると、【あなた】は「仕事が忙しすぎる」が東部地域で7割台半ばを超えている。「子どもとどのように接したらよいかわからないため」はさいたま地域で1割に近い。

【配偶者・パートナー】は、すべての層で「仕事が忙しすぎる」が最も多くなっている。「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」はさいたま地域で2割、「子どものことや家庭のことにあまり関心がないため」は川越比企地域で2割である。(図表2-23)

※基数が不足しているため、居住地域別での【あなた】東部地域、さいたま地域、【配偶者・パートナー】東部地域、さいたま地域、川越比企地域、西部地域を除いた地域は参考扱いとする。

図表2-23 子育てへのかかわりが十分でない原因（居住地域別）

(%)

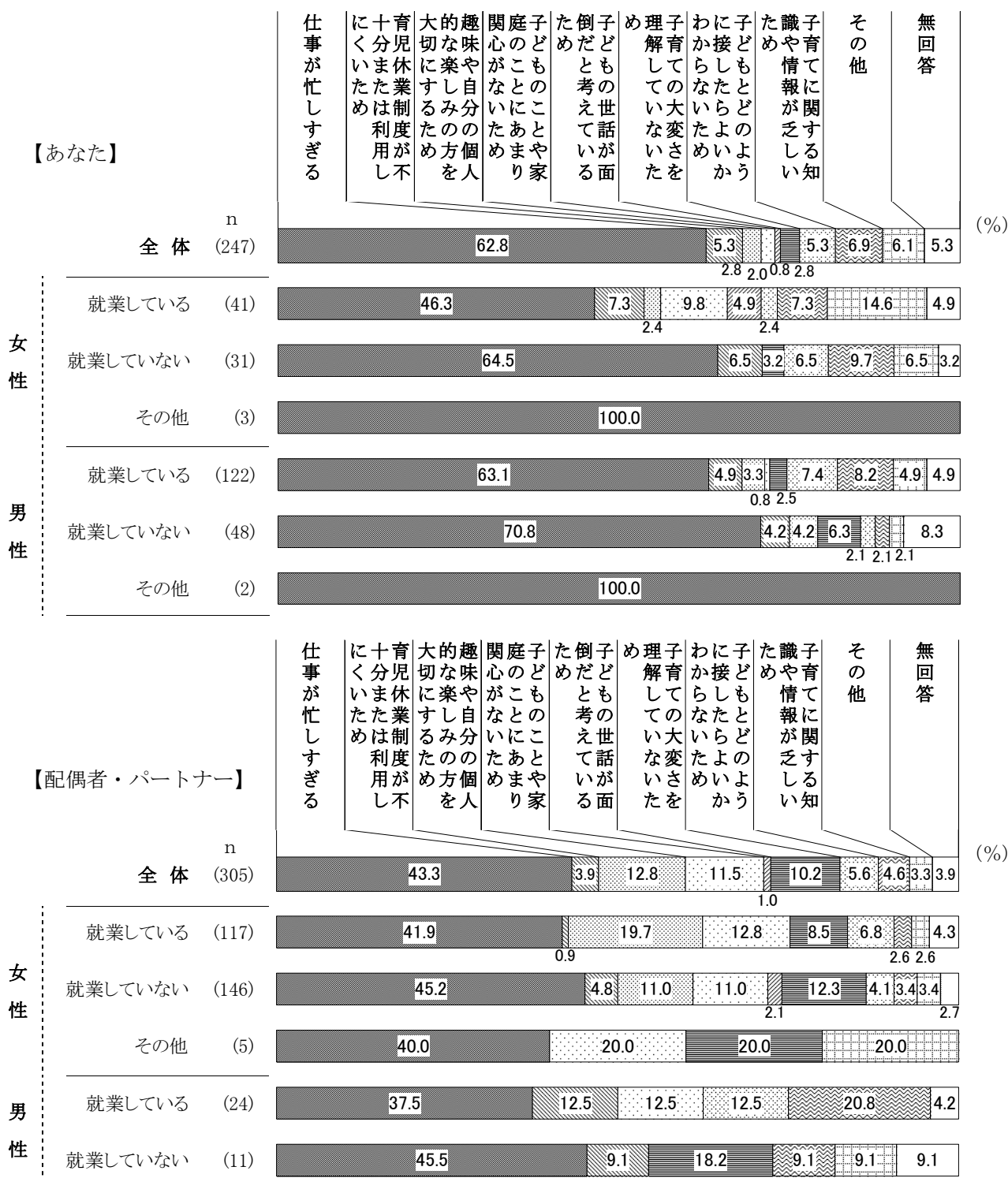
		n	仕事が忙しすぎる	子育てに十分な時間がないため	育児休業制度が不十分または利用しにくい	趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にしたい	興味や自分の個人	関心がないため	庭のことにあまり	子どものことや家	子どもの世話が面倒だと考えている	子育ての大変さを理解していないため	子育ての大変さを理解していないため	わからないため	子どもとどのように接したらよいか	子どもとどのように接したらよいか	子育てに関する知識や情報が乏しい	その他	無回答
【あなた】	全体	247	62.8	5.3	2.8	2.0	0.8	2.8	5.3	6.9	6.1	5.3							
	南部地域	22	63.6	-	-	4.5	-	-	-	4.5	13.6	13.6							
	南西部地域	25	64.0	4.0	4.0	-	-	8.0	-	8.0	8.0	4.0							
	東部地域	30	76.7	6.7	3.3	-	-	-	6.7	3.3	3.3	-							
	さいたま地域	47	59.6	6.4	2.1	-	-	-	8.5	6.4	6.4	10.6							
	県央地域	18	77.8	-	5.6	-	-	-	11.1	5.6	-	-							
	川越比企地域	26	65.4	11.5	-	3.8	-	3.8	7.7	-	7.7	-							
	西部地域	29	51.7	3.4	3.4	3.4	3.4	6.9	3.4	10.3	6.9	6.9							
	利根地域	22	63.6	4.5	4.5	-	-	4.5	4.5	9.1	4.5	4.5							
	北部地域	22	45.5	9.1	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	13.6	4.5	4.5							
秩父地域	4	75.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-							
【配偶者・パートナー】	全体	305	43.3	3.9	12.8	11.5	1.0	10.2	5.6	4.6	3.3	3.9							
	南部地域	24	62.5	-	12.5	4.2	4.2	8.3	4.2	-	4.2	-							
	南西部地域	27	55.6	-	7.4	22.2	-	3.7	-	-	7.4	3.7							
	東部地域	45	40.0	2.2	11.1	8.9	-	11.1	11.1	8.9	2.2	4.4							
	さいたま地域	45	26.7	2.2	20.0	8.9	-	17.8	2.2	8.9	4.4	8.9							
	県央地域	27	44.4	3.7	14.8	7.4	-	11.1	7.4	7.4	-	3.7							
	川越比企地域	40	42.5	2.5	10.0	20.0	-	10.0	5.0	2.5	2.5	5.0							
	西部地域	41	39.0	7.3	14.6	9.8	-	12.2	7.3	4.9	4.9	-							
	利根地域	28	53.6	7.1	3.6	10.7	-	3.6	10.7	3.6	3.6	3.6							
	北部地域	23	39.1	8.7	21.7	8.7	8.7	8.7	-	-	-	4.3							
秩父地域	3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-								

第IV章 調査の結果

性／職業の有無別でみると、【あなた】（自分自身）では「仕事が忙しすぎる」が男性の就業していない人で7割を超え、女性の就業していない人と男性の就業している人で6割台半ば近くである。

また、【配偶者・パートナー】では「仕事が忙しすぎる」が女性の就業していない人で4割台半ば、就業している人で4割強となっている。「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」は女性の就業している人で2割弱である。（図表2-24）

図表2-24 子育てへのかかわりが十分でない原因（性／職業の有無別）



※【配偶者・パートナー】の男性・その他は、回答者がいないため省略している。